明治三十七年十月二十五日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百七拾九號

第三種郵便物認可 明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可 明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第百七拾九號　目次

名家演壇

家庭看護法

衛生雜話

大家談叢

質疑欄

中外彙報

大日本婦人衛生會記事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●十一月例會廣告

來十一月五日（第一土曜日）午後正一時半より晴雨に拘はらず例會を神田區一ツ橋通女子職業學校内に於て相開き左記の通講演有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度候此段御案内申上候也

追而開會時間勵行●衣服は勤めて御質素に相願候

演題未定（戰爭談）

醫學士　能勢靜太君

戰時に於ける女子の體育に就て

下田歌子

明治三十七年十月

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいと〳〵緊要の事にして皆是婦人のもつぱら勞むべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相率て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講義演說談話を聞き互に相研究し尙之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治廿二年十二月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會々員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

第四條　入會の節は姓名族稱住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續條末に詳なり）入會後住居を轉するときは速に事務所に報知せらるべし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せす

●第四章　役員

第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を[illegible]族の妃殿下に[illegible]ものとす

第十條　本會に左の役員を置く

會長一名、副會長一名、幹事十名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は本會[illegible]會員外の婦人若くは男子に[illegible]することあるへし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を計議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

第十三條　會長の見込を以て役員外務に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ケ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生するときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會須要の事項を評議するものとす

第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を嘱托し會員をして臨席聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に同伴し講演演說を傍聽せしむることを得（但人員は總て會員たるへきこと）

第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらす

第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとし議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす

第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但此少の金額に限り日用支出の爲め事務所に引出置くことを得

第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

第廿四條　會計は一ケ年毎に決算し翌年三月總會に報告すへし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱し其規則は本會の規則と抵觸せさる樣[illegible]すべし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出へし尙會員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め該會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき雜誌は支會に一括して送付すへきを以て其費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就ても亦同じ

第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し毎會に於ける衛生上講話演說談話等の筆記及內外彙報本會の諸報告等を揭け之を會員に配付すべし支會の報告あるとき又同じ

第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を簿冊に登錄し尙

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町飯田橋通宛）振出しあるべし第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし第卅五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の發成に依り總會の決議を經るに非されば之を更正することを得ず

事務所　東京市麴町區飯田町六丁目三番地

私立大日本婦人衞生會

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穗子
仝　松平芳子
評議員　三浦教子
仝　伊集院しげ子
仝　石川貞子
仝　濱田捨子
仝　仁禮壽賀子
仝　四條升子
仝　穗積歌子
仝　緒方悅子
仝　岡山とし子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　子爵夫人　田中いよ子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　田村きよ子
仝　相馬隆子
仝　男爵夫人　南部限子
仝　中濱芳子
仝　伯爵夫人　松平充子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　子爵夫人　松平久子
仝　木場小ゆり子
仝　岸澄子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下吹子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

〰〰〰〰〰〰〰〰〰

本會特別贊成員

（●は本會及支會に於て講演せられし諸氏）

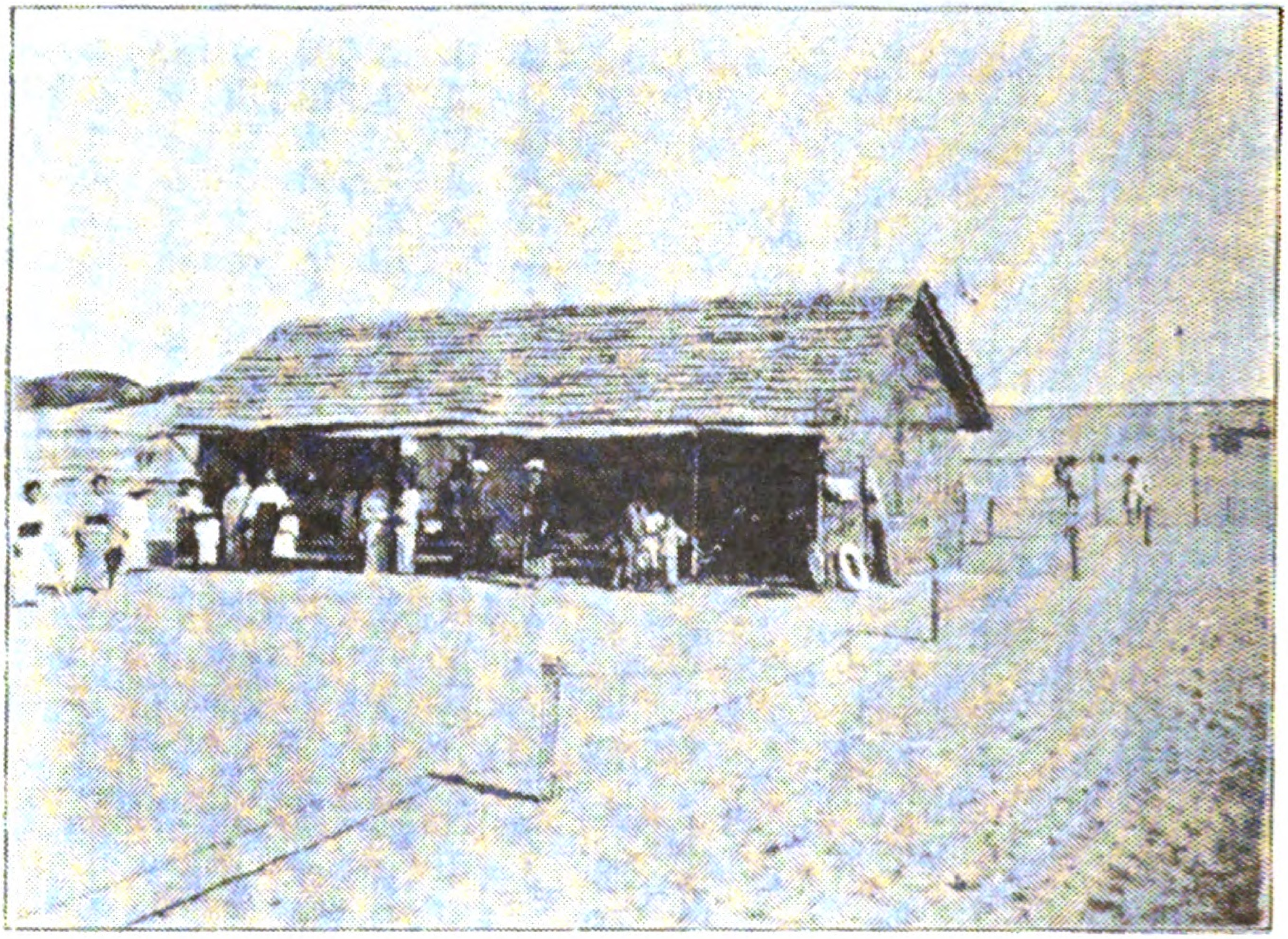
醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學士　●伊東祐彥君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
內務技手　●岩井禎造君
醫學士　●石原久君
貴族院議員　濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　荻原瀾四郎君
醫學博士　●芳賀榮二郎君
衞生局長　●長谷川泰君
新潟　●長谷川一銓君
小兒科　小原祖之君
醫學士　●林春雄君
醫學士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君

步兵中佐　●堀內文次郎君
醫學博士　●土肥慶藏君
醫學博士　●岡田和一郎君
醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　●加藤弘之君
ドクトル　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上元治郎君
ドクトル　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學博士　高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　高木兼寬君
法學博士　高木賢二君
醫學士　●田代義德君
新潟　●田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　●高田耕安君
新潟縣病院長　●高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　高橋貞所君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●田村光頴君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　米山孝郎君
三等軍醫正　●星野篠丸君
醫學士　●宮本叔君
一等軍醫　●福井忠悅君

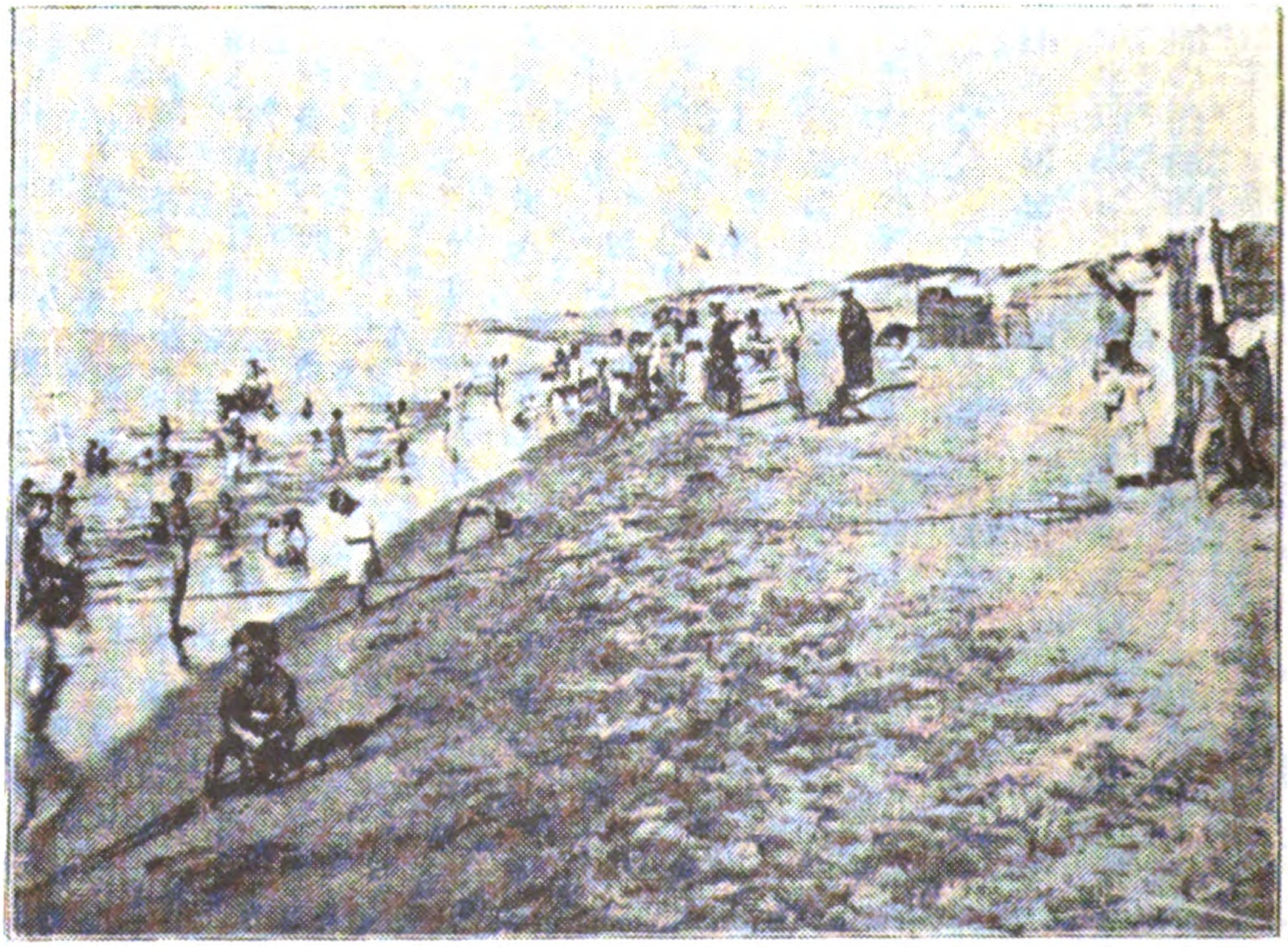
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　●南部甕男君
藥學博士　長井長義君
醫學博士　●中濱東一郎君
醫學士　●栗本庸勝君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　村松[illegible]三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　●山田鐵三君
醫學士　●山田弘倫君
山根正次君
山川春二君
醫學士　●丸茂文良君
衞生試驗所技師　●丸山達四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　●小泉質君
醫學士　古川榮君
東京　●布施正顯君
臺灣民政長官　●後藤新平君
帝國大學教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●中野榮君
文部書記官　●宇川勇吉君
子爵　●秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寬君
ドクトル　●新井古芳君
ドクトル　富士川游君
高崎病院長　土谷全次君
產科婦人科　●水原衞君
ドクトル　●久保田誠麿君

醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　●淺田决君
ドクトル　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山義六君
高崎　秋田聰太郎君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　櫻井郁二郎君
醫學士　●佐藤恒久君
ドクトル　●佐伯理一郎君
ドクトル　●榊順次郎君
醫學士　●榊保三郎君
醫學士　櫻井恒次郎君
醫學博士　●桐淵銳次君
醫學士　●北村精造君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學士　●木下正中君
醫學士　●北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學士　●三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●須山阜樹君
●ミス、ヒユース
醫學博士　●森林太郎君
醫學士　●征川三男三君
醫學士　●波多野惇君
醫學博士　●吳秀三君
醫學士　野瀨雄一君

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



新潟支會の設立に係る海水浴場



仝上

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第百七拾九號
（明治三十七年十月二十日發行）

名家演壇

新療法オステオパシーに就いて（於木曾）

ミスリード
通譯　本田増次郎君

昔し詩人が『人類の須らく研究すべきは人なり』と申しました、その人とは多分心の上から人を研究するといふ意味でありましたらうが、人は元來完全な健康を保つやうに造られたに拘はらず、身體の健康を保つことが出來ませぬから、肉體の上から人を研究する必要が出來て參りました。それで私は唯今オステオパシーと申すものからして人體の事を少々お話致したいと思ひます。

オとは新しい學問、新しい療法の名で、手を用ゐて身體各部の機械的關係を完全に整へる事を申します。解剖學生理學に基いたもので、亞米利加合衆國の中程に住んで居ます米國人ドクトル、エイ、ティー、ステイルといふ人が三十年程前に、發見と申すよりは、研究しだしたものであります。此人は家族に病人が出來ました爲めに『病とは何ぞや』といふ問題を眼前に控へました。自分の小供が三人恐ろしい脊髓病に罹つて、自ら醫學を修め開業して居る身分でありながら、何とも子供の療治が出來ませぬでした。外の上手な醫者を幾人も呼んで、こんな大家なら乾度治るであらうと樂んで居ました。大家先生が親切に見舞うて晝夜とも病人の様子をしらべ、手をかへ藥をかへて治療看病到らざる處なく、何とかして其の病氣の治る方法を見付けやうと試みなした。しかし祈禱も湯も藥も皆な無効で、父は三人の子の死骸をうち眺めてから考へました、病の事については神は人を推量の中に置き給ふた。何の病氣かと推量し、何

を飲ませやうかと推量し、又其の結果を推量するに止まるのである。しかし神は眞理の神であつて推量の神ではない、神の造られたものは心靈でも物質でも調和整頓して居る。人の身體も賢明なる神が造つて其の中に生命の靈が住んで居るものであるから、病氣が身體に宿るなら治療の方法も身體の中に備はつて居るに相違ない。病氣を征伐するに藥よりも一層有力確實なものがあるに違ひないと考へて、そのものを發見せでは止まじと決心した。

ドクトル、ステイルは斯ういふ考を以て諸方面に研究を向け、書物も隨分讀みましたが何より第一に自然といふ書物を讀みました。米國の印度人には死人を木につるして置く風習がありましたから、ドクトル、ステイルは多くの死骸を木から卸して解剖して見たら、骨について百千度も實驗をして見たら、又靭帶や筋肉と骨との關係を調べ、神經と其の根元や分布の樣子、神經の力や運動の次第、心臓から血の出入する模樣、血液の循環は何處でどうして支配されて居るかといふ事など、つまり身體の各部が其の働きをする模樣を研究し、又どんな處を神經や血液が通つて其の働きをするかを取調べました。其の結果として通常病氣と名のついて居るものは、動脈か靜脈か或は毛細管かに血液が一時滯つて居るか、或は永久滯つて居るかの原因から起る結果に過ぎないと心づいて、此議論を證明する爲めに益々研究を積んで、二十年間の實驗觀察の結果としてオの旗を翻すに至りました。

其の說によりますと、人の體は完全に整頓した機械で、其の内部に身體の健康を保つに必要なる材料が備はつて居る。素より精巧に出來た器械であるから亂暴に取扱つてはならぬ、規則正しく使つて規則正しく休ませ、繕ひも養ひも規則正しく行はねばなりませぬ。即ち規則正しくする事と食物とは身體を丈夫に保つ二大要件であります。中にも食事を規則正しくして、食物を能く嚙む事は尤も大切であります。唯今消化の事を委しくお話し致す事も出來ず、又其

の必要もありませぬが、御承知の通り食べましたものは消化器のこなしきる丈は一種の液體となつて、血管に吸收されて身體の各部に送られ、其の血の中から必要なものを取つて細胞や纖維が發達したり修繕されたり致します。即ち胃は食物を化して血液とする第一の關門でありますから、胃のなすべき仕事を胃にさせて胃を弱らせてはなりませぬ、況んや養ひにならぬ粗末なものを胃の中に積み込むは尚ほ更不都合な事であります。人體の中の化學作用は實に不思儀なもので、食べた食物の中から體に必要な液體は何でも出來ますが、人間がどれ程智慧を絞つても血一滴を製造する事も出來ませぬ。

さて善良なる血液が自然に循環すればそれが即ち健康であるといふ事さへ能く分りましたら、人は此驚くべき血液循環の妙用を妨げるやうな事をしなくなるでせう。胃は弱いやうで又强い器械でありますから、適當に取扱ひさへすれば能く命令を聞きますが、之を濫用すると必ず謀叛を起して全身を病氣に惱まします、中にも血液と神經といふ二大機關の調子が狂ふてしまひます、此二つのものは能く調和して働くもので、一方が惡くなれば外の方も働けなくなつてしまひます。神經は血液の有樣や分配を司り、血液は又神經系統を養ふもので、オは即ち純粹なる血液と常體の神經とが健康の本源であるといふ眞理に基いたものであります。

茲で少々神經分布の模樣を申上げたうございますが、之を電氣に較べましたら一番能く分りませうかと思はれます。全體電氣が何ものであるか誰にも十分說明は出來ませぬが、唯金屬を傳はつて行く力であつて、其力が世界に音信を通ずるといふ丈は分つて居ます。それで此電氣がどれ程あるかといふ事はあまり大切な事でありませぬが、電氣が完全に傳はるといふ事は何より大切で、電線に故障があつたらどんな不都合が起るか知れませぬ。我々の身體もこれと同樣で、腦髓は即ち神經の力を貯へた大きな藏で、其の藏からして脊骨の中にある脊髓といふ太い

針線を通つて神經力が身體の各部に廣がり傳はり、「或は運動を司どる電線、或は感覺を司どる電線、」或は又營養を司どる電線といふやうに、各々職務を別々にしてしかも互に相助けて働いて居ます、其の中心は悉く腦髓に歸着するのであります。それで此神經の力の總高とか供給とかいふ事は今論ずべき問題てなく、唯其の力の傳はる樣子に故障のあるとないとが健康と病氣との別け目であります。神經と申す電線に申分がなければそれが即ち健康で、爰ぞドクトル、スティルの研究の眼目であります。彼は身體の中の力とか神經とかを發見したのでなく、神經力の傳通を妨ぐる原因となるべきもの、どんな處に故障が起り易いかといふ場所、どうして其の故障を見つけてどう療治するかといふ事を發見致したのであります。

オの基いて居ます事實は今日の醫學世界には大抵知れ渡つた事て、唯其の事實に新しい區分を立てた所がオの特色であります。

オと申す名前は、オステオン即ち骨と申す語と、パシー即ち療法と申す語から出來て、骨療治と申す意味でございますが、骨の病氣ばかりを取扱ふといふ心ではありませぬ、唯骨の模樣が多く病氣の元となる所からかう名づけたのであります。ドクトル、スティルはオの基礎として人體の骨組みを研究しましたので、オを學ばうには解剖に始まつて解剖に終らねばならず、而して又其の研究は一ケ月や二ケ月でなく、オの初歩を覺える迄にでも實地の解剖をしながら二十ケ月も修業せねばなりませぬ。即ち解剖、生理、人體化學などを委しく調べました上て、初めて病氣の原因たる故障の廉々を研究致し、指と眼でもつて故障のある場所を搜します、骨が少しねぢれて居ても筋肉が剛つて居ても、腱が堅くなつて居ても、それに病氣の原因があるのでございまして、其處から大切な機關に通ずる神經を壓迫したり、血液を運ぶ動脈や廢物を運び去る靜脈を押し付けなどして病氣を起すのであります。これでオか普通の醫

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

師の治療と異なる事がお分りてせう。即ち普通の醫術では唯顯はれた證候を見て之を治療するのてありますが、オの方では病氣の原因を一番に搜し出してそれを除くのてございます。而して病源を除くには藥を以てせず、手の働きを用ゐますが、しかし唯揉だりひねつたりするのてなく、一定の揉み方をすればそれで用が足りるといふものでもありませぬ。所謂マサーヂとは全く違つたもので、マサーヂの方には叩くとかひねるとか、揉むとか打つとか、ゆするとかいふやうに定まつた仕方がございますので、それでもつて體の表面の循環を善くし、少しは生理的の効能もあつて、上手な人がすればある病氣も治る事があると申す位のものであります。

オは又日本の按摩とも違ひます。私の經驗しました所では、按摩は指の力が表面より奥まて屆くと申すまでの事で、大抵は同じ場所に同じ事をするやうであります。どこを揉めば能く神經に達するかといふ事を知る迄には解剖の事を心得て居ると見へますけれど、何は治る何は按摩で治らぬといふ事を判然知つて居ないと思はれます。

オの手術は一種特別なもので、病氣の證候や原因によつて療治の方法を異にし、素人が見ては同じやうな事をして居るやうに見えても、一人々々の病氣を能く考へてそれ〲別な手術を施して居るのであります、時によれば一回で治る事もありますれど、大概はもつと長くかゝる。それは病氣の性質とどれ程永くなるといふ事とに依るのであります。それで病名は付けないでも用は足りますから、病名を尋ねられて困る事もありますが、唯脊髓と申す太い神經の電線に沿うて二十四ヶ所の中心がある、其の中のどこに故障があるかそれを見つけて、神經力の傳通を抑さへ妨げて居るのを直せば善いと申すやうな譯で筋肉が緊つたり骨が緩んだり外れたりした爲めに起つた故障なら、藥を胃の中に入れて治るか手術で治す方が早いか直くお分りてございませう。藥品を呑みますと血液の中には入つてそれから神經を刺戟し

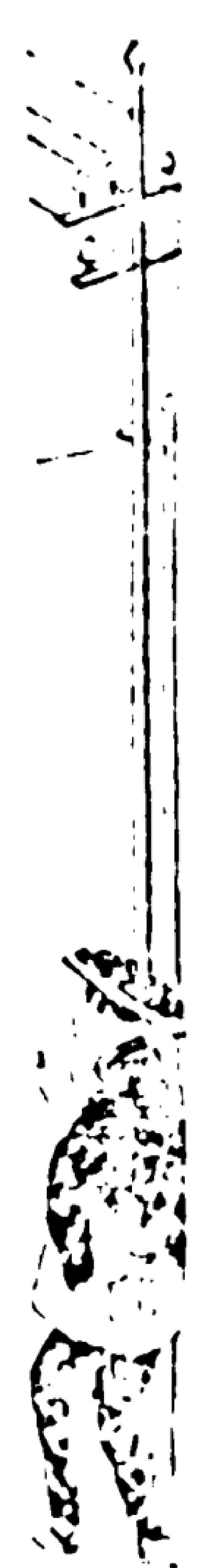
却つて病氣を重くするわけになります。それてオは藥を無暗に用ゐる近世の醫術に反對して起つたものであります。

骨や筋肉の壓迫が病氣の原因となると申す事を説明する爲め、二三の例をお話し致しますが、先づ頭痛に惱む人は極普通でありまして、頭痛にも外の機關即ち胃などの惡いために、腦が其のお相伴をして頭痛となる場合もありますけれど、多くは頸の處に血液か神經の故障があつて頭痛となるのであります。私の扱ひました一人の患者は頭痛持ちであつて頭の後がひどく痛んで幾年も直らぬ。何と療治しても効能がない。それを調べて見ますと頸の小さい骨が一つはみ出して居る、その近邊の筋肉がさわれば痛むといふやうになつて居ました。これは一度の治療で除程痛みが治まり、一ケ月で全快致しました。それからも一人はこれも幾年か續いて劇しい頭痛に始終苦みましたが、その原因は鎖骨がひつ込んで、それが血液の頸から下るのみ邪魔して居たからて、惡い血が頭の中に滯れば頭痛の起るも當然であります。こんな風に病源を捜して全治又は輕快した例を申せば、頭痛だけでも澤山あります。

それから胃病患者も誠に世間に多くて胃病にも幾通りもありますが、オが胃病を治して人類を助けた場合に非常に多いのであります。身體の機關と神經中樞との間には一定の關係がありますから、胃の惡いと申す事は十の場合で九つまでは、其の結果が反射して脊髓と申す神經中樞に現はれて居ます。それで源因を見出してそれを除けば直ぐ全快するわけてあります。唯今私の心に浮びますのは一人の靑年で、此人は永年胃病に惱んで何も恐がつてたべられぬ、色々と手を變へ品を變へて療治しても効がない。もう迚もだめであるから、仕事もやめて死ぬる用意に取りかゝらうと申す其の失望の際、私が診察して見ますと、胃に行く神經の中樞となつて居る邊の脊骨が右にそれて居ましたから、其のまわりの筋肉を揉みほごして血液の循環を善くし、永く働きの邪魔

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

されて居た神經を緩め、それから徐かに其の邊の骨をひねり戻すやうに致しました。二三度の手術でそろ〱善くなりはじめて、二ヶ月の後には何でも食べられる、自身で病人の氣がしなくなりました。
斯やうな次第で凡そ治療の出來る病氣、又普通の醫師に不治の症と宣告されましたのでも往々は、此方で全治しました例は幾らでも述べられますが、要するに何か筋骨神經の中に病源と認めて之を除く療法でありまして、例之ば便秘は腸の中を濕ほす液汁の流通が妨げられて起る、下痢は動脈が腕る運んで參つた血液を靜脈がさつさと運び去らぬから起ると申すやうなものであります。
それから又オは大に小供の發育を助けまして、打ち棄て丶置けば片輪の男女となる筈のものを善くした例が澤山ございます。
此療法が始めて米國に起りました時は普通の醫師から大反對を受けまして、唯今でもオは一種のマザーヂだと思つてろく〱研究しても見ぬ醫師が隨分ありますが、オの修業は普通の醫師よりもむづかしい位でありまして、目下米國には十二のオ專門の學校が立派に出來て居まして、昨年の在學生徒數が二千已上、今既に開業して居るオの醫師は三千人以上もございます。獨り米國のみならず他國にも追々弘まつて參りますから、東京にも此專門の醫學校がやがて出來ませうと存じます。今日本各地の都府にオの學校が出來まして、學問上不慥かな療式の醫學によつて覺束ない治療をせず、一層自然に叶つた此新療法を日本の醫學生が研究し得るやうになる事を希望致します。



鼠の話　（於本會）

錦絲醫院長
醫學士　栗本庸勝君演說
佃速記事務所員速記

私は鼠の話と云ふことに付て貴婦人貴孃其他諸君に向つてお伽話を致したいと思ひます、一體衛生の話

は極めて面白くない一種の催眠作用を行つて居るので、長く聽いて居ると眠くなる、それで衞生の話は一種の催眠術ではあるまいかと云ふ哲學者もあつて、私も或は其一部分かも知れませぬ、唯今堀内中佐が軍隊的衞生と云ふことで、失禮ながら門外漢たる諸君が、斯の如き注意をして下すつたと云ふことは、私共専門の者は、深く感謝の意を表さなければならぬのであります、そこで益々諸君に向つて、なるべく睡くないやうなお話をしたいと思つて餘程考へましたが、下手な者へ恰も休むが如して十分な事を申上げることは出來ないと信じて居りますが、矢張り是れも軍國の爲め、表題を軍國としないと諸君が聽いて下さらぬから軍國の鼠の御話をする、それは此の黑板の裏面には書いてあるが表面は黑いから見えないことと御承知ありたい、其の御積りで御聽を願ひます。

それで何故に軍國であるかと云ふと、吾々達の親類朋友、其他同胞等が今露西亞滿州地方に行つて非常なる困苦をして居る、所が此の滿州地方は傳染病の根據地で、營口と云ふ處がありますネ、牛莊、此處等は鼠の本場である、何う云ふ鼠かと云ふと黑死病鼠です、此間四谷で大騷ぎました鼠は何う云ふ爲に起つたかと云ふと、凡そ二週間かゝつて研究をして見ましたが、極めて系統が明かである、それは「アラゴニア」と云ふ汽船があつて、始終上海香港間を通つて居る船でありますが或場合には孟買の方へも行きます、所が此船は昨年牛莊の大豆を積んで來て横濱に黑死病を起した汽船であります、即ち今回も上海から牛莊の大豆を積んで來た爲に四谷に黑死病が起つたのです、簡單に言ふと牛莊の鼠が東京の中央、而も東宮御座所の側へ黑死病を起したと言はなければならぬ。

此頃の露西亞の新聞に日本の北里博士あたりが黑死病、其他傳染病の黴菌を鐵砲の中へ込めてさうして他の方へ射つからそれで南山も陷落したと云ふやうなことを書いてあるが、是れは眞面目の話でありま

すまいが、本家本元は却つて先方の牛莊に在るのです、彼處には傳染病豫防法と云ふものが設けてないから黒死病の行るか無いかゞ分らぬのでありますが、牛莊營口彼の邊には一年中絶えたことがない、それが一つ、それから、哈爾賓、彼處にも傳染病の絶えたことが無いのみならず彼處には天然痘がある、種痘をすれば助かる天然痘がある、私の先輩たる山根君が此間朝鮮に行つて皇帝陛下に謁して直ちに衛生問題を擔ぎ出して、種痘を施行いと云ふことを言はれた、是等は極めて朝鮮の目下の程度としては適切なる忠告である、それと同じく滿洲も天然痘の本場である、其次は何かと云ふと虎列剌です、虎列剌は夏の暑い最中に多くあるのであるが昨年などは始終あつて北里氏の虎列剌治療液を彼地へ餘程輸出してあります。

それから朝鮮、朝鮮と云ふ處には赤痢の絶えたことがない、少し下がゝつた御話になりますが、吾々が普通の少し食ひ過ぎたとか何とかして腸加答兒でも起して便所へ行くと便が赤色を呈して居る、而して赤痢は讀んで字の如く、多くは赤き大便を漏す所の疾病である、それ故に輕症なる赤痢は三百六十五日間絶えず朝鮮には流行して居る、然るに斯の如く流行して居る所は一時病勢が弱くなる多少人間が病氣に抵抗する力を有つてやると見えて、新來の日本人の如くには赤痢に罹らない、無論此の爲に斃れる者もありますけれども赤痢其物に困難をして非常に苦痛をすると云ふことが比較的少ないと云ふことであります、それで彼等はそれ程に苦痛を感じないか知れないけれども病氣としては中々油斷のならぬ次第である。

さうすると之を軍國に對して考へなければならぬ即黒死病、虎列剌、赤痢、天然痘、さう云ふやうなものは彼地から日本へも輸出して來るに容易である、若も輸入して來て流行することになると壯年は續々薄弱になる、從つて戰鬪力の數を減ずると云ふことになる、是れから何年戰爭が續くか知れぬ今日に爲

めに後顧の憂が出來る、故に斯の如き軍國に於ては是非とも凡べての傳染病と云ふものに上下擧つて注意をせんければならぬが、其中て私が一つ問題を捉へたのが黑死病であります。

黑死病と云ふことは諸君が、諸君ばかりでない私共の仲間ですら既に忘れたやうな傾がある、日本人は一般に浮氣である、それ故に直に思出すけれども直に忘れて仕舞ふ。黑死病に對しては何處を風が吹いて居るかと云ふやうな有樣なのは實にこまる殊に歎かはしいのは骨を折つて自分の領土にした臺灣に於ける黑死病の情況を忘れて居る、臺灣にはどの位あるかと云ふと本年一月以來の累計黑死病が四千人以上である、臺灣には吾々達の同胞が澤山移住して居るのみならず、更に腹違ひの子供……大きな子供てあるが、少し色の違ふ人間が我國民となつておる、さうして內地と交通が頻繁である土地に、累計四千以上の黑死病患者がある、かくの如く吾々同胞が澤山ペストに罹つて居るのに、向河岸の火事、否な向河岸の黑死病と考へて居るやうな人が澤山ある、さう云ふやうに油斷をして居るから橫濱でも黑死病が絕えない、四谷へも入つて來る、否油斷をしたと云ふ譯でもないでせうが到頭入つて仕舞つた、さう云ふ有樣でありますから黑死病に付ては餘程注意をして下さらなければならぬ、然らばどうして注意したら宜からうか、是は其局に當る者がある、消防夫は火を消す、巡査は盜賊を捕へる、だから鼠ぐらゐの世話は出來さうなもんだと言はれるか知れませぬが人間より鼠の方がよほど智恵があるらしゐから他人の世話のみうけてゐる場合でない、それ等の精しい話は追々に致しませうが、先以て黑死病の怖いと云ふこと、縱し新聞に無くても、今日本を侵しつゝあるものと云ふ事を諸君が御記臆を願ひたい、卽ち軍國に於ては、其の記臆を益々鞏固にすることが必要である是が一つ。

そこで鼠と云ふものはどんなものであるかと云ふ問題、是から一寸鼠の性質を御話いたしませう、鼠は

嚙齒類で能く物を嚙む奴、さうして何でも食ふ奴、餓えれば肉食もするし蔬食もする、それから極く簡單に御話すれば、身體に一種の臭がある、即ち或部分に臭腺を有つて居る、是が敵に對する防禦ともなり、又交情の媒介ともなる、故に人間が一度鼠捕器にかけると再び鼠をかけることが出來ない、それは一種の臭氣がある爲てあります、それから鼠の力は今の軍隊的衛生に適つて、自己の體量の二倍の物を引く力を有つて居る、其の鼠の子供は初め盲目で裸體で生れる――勿論吾々も裸體で生れるが盲目で裸體で生れる、生れて三四日經つと微毛を生ずる、即ち產毛のやうなものが生える、二週間――十日とも書いてある本もありますが、二週間經つと初めて眼を開いて世の中を見る、さうして四ケ月目には其の子鼠が更に子鼠を產むことが出來る、其の子鼠の生れるのは一日平均十疋である、併し田鼠と云つて野に居る鼠は少ない、分娩の度數は一年間に三四回、或書物には十二回と云ふやうなことが書いてありますが、吾々が調べましたのでは大抵三四回です、そこで生れてから一年經つと老鼠となる、吾々は五十か六十かにならなければ老人とは言はぬが、鼠は一年經つと老鼠と云ふ名前に變るさうです、老鼠となると子供を持つことが少なくなる、二年目位になると老鼠の老鼠で、曾祖母さん位になつて、さうして僅に一二疋を分娩して三ケ年目になると仆れるものが多いさうです、無論其中にはズッと長く活きて居つて、或は馬琴の怪鼠傳にあるやうな大きな鼠も出來ませうけれども、それは荒唐無稽の話てあります、それ程でなくても中には長く活きて居るものもありますが、平均するとさう云ふやうなものですそれてありますから鼠の生命は三ケ年と云ふのが普通てす、是だけを御承知を願ひたい、是は後に餘程關係を有つて居る、だから鼠と云ふものは一年に三四回子供を產んで、其運命は三ケ年、三と云ふ字を覺えて下されば宜しい、即ち鼠三と覺えて居れば能く記憶して居られる、その鼠さんは、甚だ悧巧な

ものである、又非常に惡いものであるが、どうも惡い方が多いやうてす、併ながら私は長らく大阪に居りましたが、大阪などは最も迷信があつて…………東京も隨分迷信の多い處であるが、其迷信の爲めに一時はなか〳〵鼠を捕らなかつた、それは支那の本から起つた迷信だらう、私共も迷信を破るのに中々困難して居るが、私共の微力で世の迷信を破ると言ふのは嗚許がましき次第であるが、吾々でも子歳とか丑歳とか云ふ、私は慶應元丑歳……飛んだ私の戸籍を申上げるやうてすが、兎に角さう云ふやうなことを言ふ、さう云ふ迷信は日本ばかりでなく世界何れの國に行つてもあるが、迷信があると衛生と云ふ事は何時でも進まない。

それで若し此處に子歳の方が御在になれば御免蒙るとして、其ネヅミの身上を申しませう、先づ鼠の善い方の側から御話すると、昔支那の惠州と云ふ處では、蜜を以て鼠を養つて、之を人民が食ふたと云ふことが書いてある、それから嶺南と云ふ處がある――是はつまりお伽話であるから覺えてお居でなさらぬでも宜いが、其處でも鼠を食ふた、然し之を諱み謂ふて家鹿となすと書いてある、それから今でも南洋諸島に於ては鼠を食ふて居る處もある、それであるから鼠と云ふものは籠城をして、例へば熊本籠城のやうな事があつたならば、或場合には食料に供せられる、先づ鼠のお陰で自分の生命が助かつたと云ふ事もあるかも知れない、それが先づ第一の鼠の德、所が今日は軍國多事である、軍事公債にも應じなければならぬ、國庫債劵にも應じなければならぬと云ふので、此頃私の友人が役所へ辨當を持つて來ることになつた、而も握飯である、所が非常に夏痩をして一貫三百目も體量が減つて仕舞つた、どう云ふ譯であるかと段々調べて見ると、軍國であるから勤儉貯蓄をしなければならぬ、それ故に十分に物を食はないで金を溜めて居るんだと言ふ、さと云ふ人は鼠の一疋づゝも食つたら餘程善くなるかも知れない、是は一種の軍國衛生かも知れないが、こんな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ことをするのは大に間違つた話で、内に殘つて居る者は、益々生産力を増し體力を養つて行かなければならぬ、即ち出征軍隊の爲めには後顧の心配の無いやうにしなければならぬ義務のある國民が、握飯ばかり食つて一貫三百目も體量を減らすやうな愚なことをする樣では衞生上の話などをしても恐らく馬の耳に念佛で、寧ろ鼠の皮でも食はした方が宜いと考へて居る、兎に角或場合に食料になると云ふことも鼠の徳の一つである。

其次には藥に用ゐた例がある、是れも矢張り支那、支那と云ふ處は種々な事をやる、支那の北部に行くと氷鼠と云ふて、北荒に生ずるものがある、之をどう云ふ所に用ゐるかと云ふと、熱の出た時に氷嚢を頭へ載せる、それと同じやうに支那では熱が出ると此氷鼠を食ふた、まるでお伽話のやうなことで本統か嘘か分らぬが兎に角鼠を藥に用ゐたと云ふ歷史があります。

第三の利益としては皮です、皮はなか〳〵善いもので、物を温める具に製してある、外套にもなるさうです、何時か新聞にもございました、東京で捕つた鼠の皮を剝いで外套にすると云ふやうな事が……是れは支那若くは露西亞の一部では實際やつて居る、併し日本では取調べて見ましたがまだ實際やつて居りませぬ、兎に角暖具に製すことが出來るのであります、それから背毛、毛は筆に用ゐる、是等は先づちよつと用ゐても廢物利用で宜しうございませう、是が第三、

第四には鼠の切歯は石材等の彫刻をするに用ゐる、判を刻つたり、するに用ゐた、今では彫刻師が進歩して居るから、鼠の齒も價値が出ぬやうであるが、無人島へでも流れた時は斯う云ふことを知つて居ると、多少の參考になるかも知れない。

其次は彼は子供を澤山産みますから、或は動物虐待と人は言はれるけれども、細菌學者、又吾々醫學者は動物試驗と云ふことをやらなければならない、人間を試驗の爲に使ふ譯にはいかぬ、尤も拙劣な醫者

は人間を試驗に使ふといふ風評もあるが、併し是れは別に罪にもなる場合でもあるまいが、吾々が學問の爲めに表立つて試驗をするのは動物である、動物でも馬とか何とか云ふものであると、大變金がかゝる、それでこの鼠の種族を用ゐる、即鼠は動物試驗の唯一の物であるから、大に吾々醫學者は感謝をしなければならぬ、だから鼠も餘り馬鹿に出來ないのです、私が斯樣な話をすると、鼠は天井の上で大に怒つて居るかも知れない。

それから又隨分面白い事がいろ〳〵書いてある、殆ど小說のやうな事が書いてある、春秋運斗樞と云ふ本に書いてあるのを見ると、星が鼠となつたんだ、能くあの人は何の星に當ると云ふやうなことを言ひます、又星廻が惡いとか何とか言ひますが、鼠も星からなつたもので、それは玉樞星散じて鼠となると書いてある、是れは實に馬鹿々々しい事ですが、是は星の中でも極く下等な星でしよう。

それから又抱朴子(人名)は、曰く鼠の壽は三百歲、この三の字が大變に面白いです、私の調べた所では三歲であるが、是れでは三百歲、さうして、能く一年中の禍福吉凶を知る、且つ千里外の事を知ると云ふてある、さうすると私が鼠に向つて質問をしなければならぬ、お前の壽は支那流の書方であつて、三百歲の百分の一即ち三歲が本統であらうと言ふと、鼠が答へて然りと言ふ、さうすれば先程御話した、三年と云ふことに當る、又一年中の禍福吉凶を知ると云ふことは、自分の黑死病に罹るのを知らない位なもので、是れも勿論の笑草である、又鼠の繁殖は極めて繁しと云ふてあるが、是れだけは本統である。

それから大黑樣の「使はし奴」だ、福の神である、大黑樣が俵の上に乘つて斯う云ふやうに小槌を持つて居ると、下で鼠が踊を踊つて居る、即ち福の神だと云ふやうなことを書いてある、是れも荒唐無稽、信するに足るべきものでない、それから又子の日の御賀と云ふこともある、それからもう一つ白鼠と云ふことがあります、吳服屋の白鼠が存外黑鼠であつ

て、金を取つて逃げたと云ふやうな事もありますが、先づ白鼠と云ふと善いものになつて居ります、是等は鼠の位置として善いものである。

それから斯う云ふ面白い事が宋の稽神錄に書いてある、或將軍が役所に出て、椅子に腰を掛けて傲然として威張つて居つた、一體此將軍は大變に情け深い人であつた、名前は龍武と云ふ人であつたが、鼠が此將軍の椅子の前に來て拱立をした、手を擧げてお辭儀をするやうである、將軍は不思議に思ふてそれを追ふた、追はれた鼠が又先へ行つてからに同じやうな事をする、是れは不思議だと云ふので、何氣なしに其の將軍が庭まで追つて出た、ところが出るや否や忽ち家屋倒潰をりとあります、併し是れは鼠を有難くするが爲に拵えたに違ひない、尤もそれが誠であるとすれば、今でも學校などが壞れるやうな時には早くしらせて呉れなければならぬけれども、此頃の鼠は橫着になつて、稽神錄に書いてあるやうな鼠は無い。

又それと同じやうな話で、洛陽の李氏と云ふ人が殺生を好まないで、生物を殺すと云ふやうな事はしなかつた、それで自分の家には猫を飼はなかつた、詰り鼠を食つたり何かするのは氣の毒だと云ふので飼はなかつた、所が或時宴會をして御客を百人以上集めた、さうして音樂を始めた時に、數百の鼠が向ふの築山の所へ出て音樂に合して踊を踊つた、雀踊と云ふのは日本にもあるやうだが是れは鼠踊、そこで是れは妙だと云ふので、李氏は皆と共に庭に出て之を見ました所が、客が皆出て仕舞つた時に、前の例と同じく其家は崩壞したと云ふやうな事がある、斯樣な事ばかり御話すると、どうしても鼠に肩を持たなければならぬが鼠の惡い事は又隨分ある、兎に角是等は總て荒唐無稽で、昔の支那の小說である、それが段々日本へ傳來して老人のお有難連の迷信となり兎に角鼠と云ふものは善いものである、から捕へちやいけないと云ふことを言ふたらしゐ、即ち私は其の實例を大阪に於て實驗した、某所ではどうして

も鼠を捕らぬ、鼠を捕れば商賈が大變衰頽を來すと言ふ迷信で、奚ぞ圖らんやペストが彼處に入つたが爲に非常な衰頽を來すと云ふことは知らない、其の當時さう云ふ迷信の爲に、島の内と言ふて大阪で目貫の、東京で言へば銀座或は日本橋と云ふやうな處の重立つた所で、さう云ふ考を起して、吾々が鼠を捕りなさいと言ふと、捕りませうと言ふけれども、お家はん、(彼地では奥さんをお家はん、お孃さんをいとはんと言ひます)其のお家はんやいとはんが絕對的に反對だ、なかなか臺所では三讀會まで通過しない、忽ちに鼠が福の神と崇められて到頭捕らなかつた所もある、それが爲め計りでもありますまいが黑死病が非常に蔓延をして、黑死患者が百六十一人出來ました、さう云ふやうな有樣であつた。

それからもう一つは鼠と云ふものは、塵劫記に書いてある如く、鼠算で殖えるから、それを捕り盡すと云ふのは、殆ど學者の机上の空論である、そんな事をしたつて仕樣がないと言つて、普通の人は耳を傾けぬ、現に有力なる名譽職に在る人がさう云ふ事を言ふ、是等は衛生の頭から打算すると大嘆息をしなければならぬのである、それで即鼠の話をしなければならぬ、鼠と云ふものは老鼠になれば繁殖力を減じ、鼠算的の繁殖をするものでない、もう一つには鼠と云ふものは共食をする、同胞相食む、例へば屬を異にして居るとか、種類を異にして居るとか云ふと、相反噬して優勝劣敗、さうして之に勝つと云ふのが彼の性質です、それであるから鼠算のやうに鼠が殖えたならば、支那の本に書いてあるやうな事を御話することが出來る、即いろ〳〵の鼠が殖えて市中をウヨ〳〵歩いて、車が通る時に車輪に觸れると云ふことになるかも知れぬが、事實は之に反して居る、鼠算で殖えると云ふやうなことは慾張つたお爺さんやお婆さんが言出したので、皆さんは是非共鼠算と云ふことは嘘である、繁殖することに付ては今御話をしたやうな事であるし、それからして鼠は共食をして、決してさう云ふやうに殖えるものでな

いと云ふことは御承知置を願ひたいのである。
それからもう一つ、或人は曰く鼠はどうしても捕り盡すことが出來ないから鼠を捕るに及ばぬと、是れは以ての外の説なんです、此事に就ては男子の御方には口を酸ッぱくして御話したことがあるが、御婦人に御話することは今日が初てゞありますから、今日御來會の貴婦人貴孃の方々に特に願ひたいのは、黑死病を豫防するに鼠を捕る、其の理由は追々時間があれば御話を致しますが、鼠を捕り盡すことが出來ぬのに捕ると云ふことは愚ぢやないか、斯う云ふ説ですが、是れは一應御尤もで、然るに否々其の望んで居るのは、捕り盡さうが爲に鼠を捕るのではない、目的が土臺間違つて居る、根本から違つて居る原則が違つて居る、吾々が鼠を捕ることを奬勵し、自らも捕つて居るのは、鼠の數を減少せしむるのが目的である、鼠を滅却する鼠をば、絶滅しやうと云ふのが目的ではない、然らば何故にそれが必要であるか、鼠が減少すれば黑死病が起つて來ないのはどう云ふ譯か、斯う反問がある、即ち黑死病の病原と云ふものは一定の濃稠を要するもので、即ち或程度まで濃くならなければならぬ、例へば吾々が一室の中に呼吸して居つて、或程度になると眩暈頭痛がするそれは炭酸と云ふ惡い空氣が或一定の稠度まで蓄積するが爲である、其の惡い空氣が或一定の稠度まで濃厚になつて吾々の身體に害毒となると同じく、黑死病原と云ふものは或程度まで濃厚にならぬければ人に傳染るものでない、もう一つ言ひ換へて見れば一體黑死病と云ふものは本原は鼠の病毒である、人間の固有の病氣ではない、だから黑死病が鼠の間に流行して居つても濃厚にさへならなければ……、もう一つ言辭を換へて言へば其の黑死病鼠の數が多くならなければ人間に傳染るものでない、御解り下さいましたらうが、もう一遍諄く御話致しますが、黑死病と云ふものは鼠の病氣である、それであるから鼠の中に其の病氣が濃くならなければ人間に傳染るものではない、稀薄な、極く淡い間は決して人に傳

染るものでない、それ故に四谷に二疋の黒死病鼠が出來たけれども、人間には傳染らない、それであるから吾々の大體の目的は、鼠の數を減ずれば宜いのである、鼠を絶やすと云ふことが世の中に出來ませうか、凡べて傳染病豫防と云ふことは決して絶對的のものではない、比較的のものと言はなければならぬのである、一の例を擧げて御話しますと、如何に警察官が盗賊を捜して居つても捕へ盡せるものではない、之に付ては

　石川や濱の眞砂は盡きるとも‥‥

の句が證である。

是れは、誠に名句であつて、なか〳〵盡きるものではない、吾々が警察の權能を頼とする所は、盗賊を或程度まで減少せしめやうと云ふことが目的なんです、例へば吾々が親に叱られる、なか〳〵親の言ふことは聽かない、小言などは頭の上から通らせて仕舞ふ、又吾々達が子供を善くなれかしと言ふて叱るが、俗に言ふ親馬鹿と言ふもので、なか〳〵立派なものが出來ない、屑ばかり多くて仕樣がない、其他教育家にも收賄事件と云ふやうな事が出來る、そんなやうなもんでどうも仕方がない、だから之を鼠の方に應用しても同じで、鼠を根本から絶滅することは出來ない、其數の減少することを目的とする、幸に東京では私立婦人衞生會なり、貴夫人貴孃其他熱心なる御婦人方が御盡力になつた結果でありませう東京に於ては大變に鼠の捕れ方が宜しうございますそこで一寸鼠の數を御覧に入れませう

　（表に付て説明せらる）

此處に掲げました此の赤い方は、捕へた鼠を一疋五錢で買上げた方です、青いのは矢張り五錢ですが死んだのを五錢で買つたのです、それで是れがどの位あるかと云ふて、明治三十五年十二月二十八日から三十六年六月十六日までの計算で、日本橋は九萬以上捕つた、それから神田、京橋、芝、淺草、深川、下谷、本郷、小石川、麹町、牛込、麻布、四谷、赤坂、本所、是れて見ると本所には黒死病があつて本

場だけに鼠を澤山捕つた、是れはまるで違つた他の原因で斃れた鼠、是れは黑死病の爲に斃れた鼠であります、それで斃鼠を發見すると、黑死病の病毒がどの邊に來て居るかと云ふことを調べる即細菌檢査を行ふて居る、是れは大層必要です、所がどの位鼠を捕つたかと云ふと、先づ三十六年中だけを御話すると、百五十三萬九千九百四十六疋、是れが本統の紙幣であつたならば大變です、鼠だから落膽の至りだ、兎に角一疋五錢價の物を百五十萬捕つた、そこで私が此頃閑がありましたから此の長さを計つて見ました、が一疋四寸平均とした、四寸と云ふと短いやうですが、鼠の子供もあるし老鼠もある、それ等を平均して四寸とすると四十七里十四町三十六間二尺四寸となつた、是れは確かに御婦人方の御盡力だらうと深く感謝を致して居ります、何故なれば貴婦人方の帶を引延すと是れ以上になる、此長さも其の帶から割出して斯う云ふやうに捕つて下すつたのでよう、當らずと雖も遠からぬことをと信じます。

所で是非鼠を捕つて頂かなければならぬことは、是れは黑死病が怖いが爲のみならず鼠の害は其外にまだある、鼠を捕らなければならぬ譯がある、是れから鼠の惡い方を御話しませうが、先づ鼠に嚙まれる鼠咬症、貴孃方が家へ歸つて　是れはお若いお方に言ふが、菓子はお嫌ひか知らぬが少しは菓子も食るだらう、菓子の中でも鼠は鹽煎餅が最も好だ、鼠から直接聽いた譯ではないが…、それをば寢所へ入つて本を見ながらポリ〳〵内證で食つて居る、其處へ阿母さんが來るとチョット蒲團の中へ入れて仕舞ふ、其中に腹も張つて來て眠くなる、それッきりで燈火なんぞは消すんだか消さないのだか寢て仕舞ふ、さう云ふ所へ鼠が來て、是れは好い物があると云ふので取らうとすると、眠つて居ても慾張つて取られまいとする、又鼠は取らうとするから指か何か咬まれる、是れは御婦人に多いやうですから御氣をお注けなさい、斯ふやうな事はどうであるかと云ふに、鼠に咬まれて三年ばかり苦しんだ者がある、殆

ど僂麻質斯のやうな徴候、どう云ふ時に咬まれたのがさうかと云ふに鼠が腹の空いた時に咬んだのがさうだと云ふ説がある、或は惡食した時嚙まれた結果は、諸君が非常に害を受ける、それを名けて鼠咬症さう云ふ時には阿母さんに叱られると思つて默つてお居でなさらぬて、直に醫師へ御駈付けなさらぬでは不可ませぬヨ、是れが一つ大なる害である。

其次は五穀の災害である、是れは多くは田鼠です、彼の田鼠とも言ふし野鼠とも言ひます、同じ鼠でも家鼠とは性質が違ひますが、同一のものと看做しても大きな間違はない、之に付て實際の近い例を御話致しますと、札幌附近に千五百何町歩の開墾地がある、其處に鼠が出て作物に大變害を與へるが、どんな事をしても防ぐことが出來ないと云ふので、亞砒酸と云ふ毒藥を用ゐることを許して吳れと言ふて來ました、是れは東京でも黑死病を防ぐ爲に鼠を捕るのに亞砒酸を用ゐることを許してあります、それと同じく田畑の爲に使ふことを許して吳れと彼地から上申が來ました、それで是れは中央衛生會で可決されまして許すことになりましたが、これ程に害を爲すものである、是れは昔からあるので冷泉天皇、後小松天皇、後花園天皇、後柏原天皇、靈元天皇等の御代の時にも、幾數億の鼠が害を爲したと云ふことが昔の記錄に書いてあります、それでありますから鼠と云ふものは五穀草木をば傷ふのみならず、吾々達の米櫃をも損害して困る、私共に米櫃はタッター つしかない、穴を穿けられると餘程の苦情で、忽ちに介夫人、介夫人と言ふとおかしいが他に用ゐれば介夫人、それが忽ちに經濟上の質問を起すやうになつて來る、斯う云ふやうに米櫃をガタッカせるのは鼠である、廣く國家といふ上から言ふても、又狹く裏家の米櫃論から言ふても、鼠と云ふものは餘り有難くないものである。

それから今度は貴孃方の大變騷ぎなことでありますす貴孃方は御存知があるかないか知りませぬが、衣服を損害する、今の軍國にさう云ふ方は無いが、随分婦

人の生命は衣服なり、衣服は即ち生命なりと云ふ位に衣服を思ふて居らるゝお方がある、今日御列席の方にはさう云ふ方は無いけれども、貴孃方の御友人にはさう云ふ方がありませう、私の家にはございませぬが、私の親戚にはさう云ふのがあつて、私共の簞笥の中には澤山衣服がございますから近日展覽會を開きます、どうぞ御出でを願ひたいと云つて來た私は之に答へて、親類だから何か御馳走するなら見に往つても宜いと云つて遣りましたが、私は丁度義太夫でも聽かせられるのと同じ積りに思ふて居ります、併しさう云ふ方は軍國の今日にはございますまい、けれども一體に御婦人方は衣服をば好くものです、私は自分が子女に強請られるから苦しがつて斯樣な氣焔を吐くのではございませぬが、衣服は程よく愛して戴かなければなりませぬ、其の衣服……大切なる衣服を損害することゝ、私が閑暇にあかして調べて見た、三十一年の調べで東京の人口が百四十四萬百二十一人ある、それから此の割出し方はどの位にして宜いか餘程困つたですが、私の宅が貧乏であるから極く貧乏くさく計算をした、それで戸數はどの位あるかと云ふに三十一萬六千五百二十七ある、そこで人間でなく一戸に算入して、一戸一年の平均二十錢だけ鼠に嚙まれる、非常に內輪の勘定です、二十錢だけ衣服を破られたり其他の物を嚙まれたりする害があると、すると其の金額が六萬三千三百五圓四十錢になる、東京市內に於て一年中に六萬圓だけ鼠の爲に損害を受けなければならぬ、所が鼠を買ふのは極めて愚でないかと云ふけれども、私の調で見ると、三十六年度に鼠を買上げたる費用と云ふものは、一疋五錢平均とすると七萬六千七百九十七圓三十錢である、百五十萬の人の家で鼠に食はれる算當が六萬圓です、而して鼠を買ふ算當が七萬圓であるならば、一年三百六十五日に百五十萬の人が一萬圓位の寄附をしても鼠を買ふが宜いと思ふ、さうしないで鼠の爲に害せられると云ふことは經濟の上から言つれも愚な話である、それ故に鼠を買つ

て藏かなければならぬ、斯う云ふ議論にならうと思ふ、是は衣服器具の損害です、それなればお前そんなに鼠を怖がるが、鼠から人に傳染つた例があとるか云ふのです、其處だけを御話します。（國に就て說明せらる）此處に圖を揭げて置きましたが是れは三十二年十二月以來、本所の東京瓦斯紡績會社の寄宿舍に黑死病が發りました、所が此の黑死病はどうして發つたのであらうと云ふので色々取調べました結果、是れは確かに鼠であると云ふことが分つたのです、此圖は、此の建物が會社の病院です、是れが「ほ號」と云ふ寄宿舍、其の「ほ號」には十六室ある、「に號」「は號」「ろ號」「い號」と斯うある、是れが工女の食堂です、此處に在るのが倉庫です、それで此處の四十二號と云ふ室に最初ペスト患者が出來たのですが、此處に繪の書いてあるのは女工の風を現はしたものであります、此の四十二號に最初發つて此處て黑死病鼠を發見した、天井に於て四疋、其下の戶袋に於て四疋、それから其隣室の四十三號、此處て八頭の斃鼠と四疋の有菌鼠を發見したのです、併し此處には工女が凡そ三十人四十人位居りますが、鼠から傳染つたと云ふのがどうして分るかと云ふに、此の有菌鼠を發見したので分る、其の筋道はどうてあるかと云ふに、斯うなのです、鼠の糞尿の中には無數の黑死病菌を含んて居る、黑死病菌と云ふのは黑死病を發す黴菌、虫てはございませぬ下等植物です、それが黑死病の病原である、そこて以て鼠が騷いて小便を滴す、それが疊の上へ滴らす、それを知らずに工女が手をつく、工女と云ふ者は勞働をするので手などには幾らも微傷がある、吾々にも何時か知らぬ間に擦傷などが出來て居ることがありますが工女などには最も多いから其處へ黑死病菌が附着くと、皮膚の下に澤山淋巴管と云ふ管がある、其液は白い無色のものである、其の淋巴管へ入つてそれが脇の下のグリ〳〵、即ち淋巴腺と云ふがあつて、其處へ黴菌が附着て仕舞ふ、そこて十分培育されて一の中毒症を起す、是れがペストの中毒症である、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さう云ふやうに鼠の糞尿の中に黒死病の黴菌を有つて居るから、手をつくばかりでなく、知らずに足で踏むことがある、さうすると足の裏にも擦傷が澤山あるものであるから其の傷から淋巴管へ入つて鼠蹊部と云ふ内股の處へ附着いて黒死病中毒を起すやうになる、即ち著しき例は、四十二號四十三號である獨り四十二號四十三號ばかりではない五十號にもあつた、五十號などは工女の寢衣の中に鼠が死んで居つた、それを檢査して見ると黒死病鼠、それから二十八號にも四號にもあつた、斯う云ふやうな工合で東京瓦斯紡績會社の寄宿舍の中に四十四頭と云ふものは黒死病鼠があつた、其爲に彼處から十三人と云ふ黒死病患者を出すやうな不幸なことに遭遇した、斯う云ふ實例があります、それであるから鼠と人間と接觸する機會は餘程多いものである。

もう一つは、東京ではありませぬが大阪の例を御話すると、今のは工場である、さう云ふやうな不潔な處には居るであらう、併し清潔な處には居やうがないと云ふ反駁もあるが知れませぬから一つの例を御話すると、大阪の松嶋と云ふ遊廓のある處、なかなか賑かな所です、名は申しませぬが其處に何某と云ふ十五六萬圓の身代の者があつて、其家の主人が黒死病に罹つた、是れは不思議である、どう云ふものであらうと頻りに臺所などを探したけれどもどうも立派なもので鼠も見出さなかつた、處がそれより三ヶ月以前に建つた茶座敷があつた、それを一つ調べて見やうと云ふので天井を剝ろうとした、すると先方では大變に嫌つて、兎に角是れは此間建てたばかりであるし、此の天井は一枚板で、どうだの斯うだのと拒んだのでございましたけれども、無理に剝して見た所が、其處に鼠が三疋ほど死んで居つた、之を顯微鏡で檢査して見ると正しく立派なる黒死病鼠であつた、そこで尙ほ家の細君に向つて、彼處へ主人が入つたことはないかと言つて尋ねた所が、細君の答へて言ふに、あの一室は他の者には掃除をさせませぬ、主人が自分で掃除をしますから始終入つて

居りましたと言ふ、そこで總ての問題が解決された全く其の主人が掃除をし、雜巾をかけるやうなこととの爲に、黑死病鼠の遺こした糞若くは尿に觸れた爲に感染したものと見なければならぬ、鼠と云ふものは極めて無遠慮なものであるからどこでも歩行く故に、有菌鼠があつた以上は、品位の上中下、貴賤老幼を問はず之に罹る、それ故に衞生上の注意は決して下流、下層の人ばかりでない、上流の人も注意をしなければならぬと云ふことになる、東京の黑死病は工女が主で十五人の中十三人までは工女であつた、下層の人である、然し一人は横田醫學士が之に罹つたが、あと一人も下層の者であつて女である、詰り女が十四人男が一人でありました、所が大阪の例はさうでない、試に其の罹つた職業別を御話すると斯う云ふことになつて居る、諸君も決して油斷は出來ない、學校生徒が五人罹つて居る、勞働者の家族が二十九人、商人が三十六人、職工が二十三人、職工と云ふのは普通の職工、例へば裁縫だとかさう云ふやうなものだけです、紡績職工が十五人船乘の家族が八人、それから醫師及び家族が十人罹つた、是れは肺ペストと云ふ爲に……、人力車夫が十一人是れは大變少ないです、農業者の家族が六人、建築請負業の家族が二人、雇人が八人、湯屋が一人、銀行家が一人、學校の教員が一人、無職業、所謂役人てすネ、役人は無職業としたが是れが九人、さう云ふやうな工合で、上より下までズット罹つて居るのである、鼠の漏したる所の病毒に接する機會があれば、總ての人は之に罹ると云ふことになる、それであるから鼠に接れぬことをば始終注意をしなければならぬ、併ながら鼠に觸れぬことは注意が出來るけれども、吾々の一番困難をして居るのは小便若くは糞に觸れる機會を防ぐことです、其の機會を防ぐのは極めて困難である、何となれば眼て之を見ることが出來ない、糞であれば見ることが出來るけれども尿となつたならば見ることが出來ない、(圖に就て說明せらる)此處に掲げてあるのは黑死病黴菌を畫い

たのですが、是れは「エルザン」氏の發見した黑死病の微菌である、是れは太く短くて眞中に穴が明いて居るやうに見えるです、恰度三味線の駒のやうに下に穴があいて居る、その大きさは十分の一ミリメートルで、恰度貴孃方の毛を一本拔いてそれを横に切ると毛の横斷面が出來る、其毛の横斷面の上に四十以上もあがることが出來る位の小さいのですから、如何に大きな眼て見ても、眼鏡を四つ掛けても中々普通の狀態では見えない、さう云ふやうなのが原因を爲すものでありますから、始終注意をなさらないと黑死病に罹ると云ふことになる、先程御話したやうに臺灣には四千人からある、日本の內地に於ても注意するから此位で終るが、若し注意しなければどの位蔓延して居るか分らないのである、軍國の今日牛莊其他から續々輸入するだらうと思ひます、併し豫防法もあり又軍隊にも醫者が居るからさう云ふてとには注意もしましようが、或場合には黑死病の潜伏期には微毒と間違へるやうなこともあるから、どう云ふ場合で入らぬとも言へず、荷物などに病毒が附着して這入つて來ると云ふことも屢々見ることでありますから、十分に注意しなければならぬと考へて居ります。

要するに下手な長談議で御氣の毒に感じます、餘程御眠むくなつたらうと思ひますが藥瞑眩せざれば其病癒えずと云ふから此の位なら効力がある、それで此邊が御暇しなければなりませぬが、終に臨んで皆さんに御注意を願ひたいのは、御婦人の衛生と云ふものは實際問題、鼠を捕る捕らぬと云ふことも實際問題、如何に其家の主人がさう考へても其の主婦たる所の御婦人の方々が其心にならなけれ出來ないのであります、又鼠の驅除のみならず總ての衛生が婦人を中心として働かなければならぬ、若し婦人を中心にしない處の衛生なれば不具の衛生であつて決して實行が出來ない、實行の出來ない衛生ならば口角泡を飛ばして自分の理想を以て諸君にお勸めするのは無益であるそれ故に餘り堅苦しい議論のやうでご

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ざいますけれども、衞生と云ふものは是非共婦人方を中心にして働かなければなりませぬ、日本の衞生に熱心なる人は何時でも衞生に金を要すと云ふ爲に紳士紳商の人を先に說論する、それ故に結果は何時でも困難なる境遇に陷るのであります、之を若し西洋の如く婦人を中心として衞生を奬勵したならば、恐らく日本の衞生はモット進んで居ることゝ考へます

甚だ蕪雜なること、手前味噌のやうなことばかり申上げたやうでありますが、一面には諸君の御眠氣を醒すやうにお伽話に類似した事を申上げまして、一面には私の平素熱心に希望を致して居ります所の衞生的黑死病退治策を諸君の御耳に入れた次第でございます、軍國多事の今日諸君は豈獨り黑死病のみならんや、總ての傳染病に十分に注意をせられて、先程の御話のやうに軍隊的婦人の態度を維持し、且つ擴張せられむことを衞生の爲に深く希望致します。

家庭看護法（前號の續）

醫學博士　三宅秀君

それから傳染病人を載せる方の車でありまするともう一つ其事に意を用ゐてある所があります、それは消毒の出來るやうにしてあるのであります、一人の新患者を運んで仕舞ふと全部消毒の出來るやうな工合に拵へてなければならぬのであります、普通の馬車で傳染病人を運ぶと馬車の張皮から何からソックり消毒するやうに致してなければ完全なものとは言はれないので、傳染病人を運搬する爲に拵へたものであれば完全に消毒が出來ますから、さう云ふものがあれば兎に角手本を取寄せて衆人に知らしめたいと思ふのであります、

それから只今戶板を用ゐると云ふことを申しましたが、急の場合には何にも備へがございませぬのでありますから、先づ此處等で見渡しました所では戶板

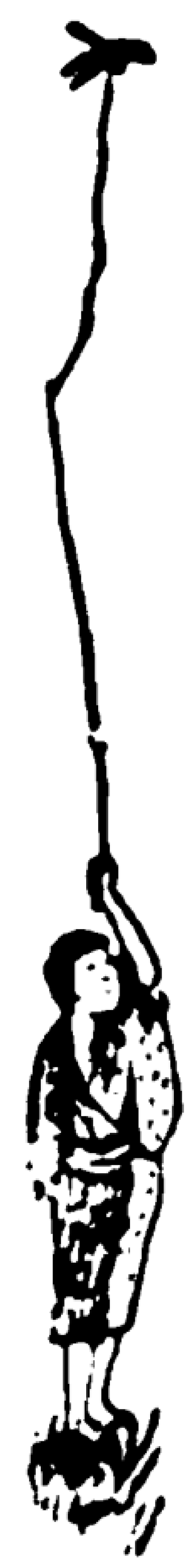
を剝がして其上へ載せる、剝がすべき戸板が無ければ黒板でも何でも宜しい氣を利かして何でも直に間に合ふやうに頓智を利かせるやうに稽古をしなければなりませぬ、戸板に限りませぬ此邊なら黒板のやうな斯う云ふもので運搬器を拵へる、それから又火事や地震で病人を家の外へ俄かに擔出さなければならぬやうな時には此前申しました通り日本では脊負うことに馴れて居りますから、平日なれば色々の規則などもありますけれども其規則に拘泥せずに普通に子供を負ふやうな工合にして負ふて連れて立退くことが一番宜からうと思ひます、是は火急の場合でありますからして豫め企てゝ都合の好いやうにと云ふことは出來ないのであります、多少は病氣に障つても兎に角生命だけ助けて置けば宜しいと云ふやうな意味で輸送するのであります、

今度は又今少し遠い處へ運ぶことを申します、即ち病人が旅行をすることでありまず、病人が旅行すると云ふとそれはしないでも宜かりさうに思ひます、けれどもなか〳〵此旅行が病氣を癒す助けになるのであります、或は旅行した先が湯治場であるとか、或は海水浴場であるとか云ふやうな場所でありまずと適當の場所までどうしても旅行して行かなければならぬ譯であります、さう云ふのは長い距離の所へ病人を運んで行きます、十里も二十里も先まで病人を運んで行かなければならぬ必要があります、是は大抵醫師の指圖で此處から彼方へどの位の距離の所まで出養生したら宜からうと云ふことは此方の病人の方で言ふ注文ではなくて醫師の撰定に從つて其旅行をしなければならぬのであります、併ながら醫師に頼みまする時分に是非此處へ行かねばならぬと云ふやうな工合に醫師の方から一途に決めて指定をされますと少し不都合なことがあります、何故かとならば療養地の風儀が極く惡うございまして、資産の有る人が養生に行きましたり、或は保養に往つたりするやうな所でありますと先の養生場の風儀が甚だ贅澤でございまして、只病氣療養のために旅行する

者の爲には先の風儀次第で餘程經濟の方へ暇いて來て、何れ程良い場所であつても其目的を遂げさすることが出來ませぬで中途で止めねばならぬやうなことが起りますから、斯う云ふ出養生を致さうと思ふ時分には、醫師の方に場所を撰んで貰ひますのに、豫め第一第二第三位ゐ撰定て貰ふことが必要であります、日本て從來行はれて居りますのは重に湯治場でありまするが、追々西洋風が廣く行はれるやうになりましてからは、先方には海水浴場も無く湯治する溫泉も無く何もございませぬ所でも唯閑靜て空氣の良い氣候の好いと云ふばかりで養生に行く場所も近來では出來て參りました、例へば、腦に病ひがあるとか、或は肺に病ひがあるとか云ふやうな人で、氣を休めて運動してさへ居れば宜いと云ふ場合には必ず海水浴場や溫泉場に限らぬのでありますから、さう云ふ工合に氣候を目的に旅行をしやうとしますならば隨分撰ぶ場所は澤山あるだらうと思ふのであります、けれども熱海へ行かねばならぬとか伊香保へ行かねばならぬとか云ふやうに溫泉場であると云ふと昔から開けて居つて隨分土地の風儀が華奢ばかり增長して居るやうな所がありますから、さう云ふ所は病氣養生の爲にならない、譯ではないが或は行き兼ねるやうな場合が甚だ多いのでありますから、前以て澤山の場所を撰んで貰つて一番病人の身體に便宜な所へ出向くのが先づ宜いのであります、歐羅巴では所定めずに船て海旅行をして居る病人さへもあるのであります、何處と云ふことなしに海上を彼方此方に航海ばかりして海の空氣を吸ふて養生して居る者さへあります、日本人などは海旅を嫌ふ方の人が多うございますから海て病氣を癒さうと云ふことはおかしいやうでありますが歐羅巴邊りでは斯う云ふことを喜んでする者がある位であります、此等も追々吾國にも必要になつて來るでありませうが、病人を海へ連れ出すと云ふことも此處て論じて置かうと思ふのであります、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人と子供



本欄は唐澤學士の擔當なるが本月も休稿示左の記事を借りてうめあはせとす

●嬰兒の補育に就て

英國に於て小兒科の大家として有名なるカントレー博士の談は擧げて大日本私立衞生會雜誌にあり頗る有益なれば此所に轉載せり

ベルゲレーブ、小兒科病院長、カントレー博士の嬰兒補育に關する講演は、頗る、有益のものなるを以て、此所に其の概要を上げん。

斯會は、ロンドン、モルヲミヤー街、カーペンドルームの演説會堂に擧行せられ、醫學專門學校長、ウキリアム、ヲヤーチ氏を筆頭として、貴婦人令孃の聽衆頗る多かりき。

カントレー博士先立ちて、ロンドンのみならず、殆ど、全國を通じて小兒の絶大なる死亡數は、小兒補育上に、大關係を有し、國民の尤も注意を要すべき、刻下の急務なりと痛論せり、曰く、平均ロンドンにて出生せし小兒、百人中六十人は滿一歲に滿たずして、早く死亡す、然るに地方の一大都市にありては、之の比較は千人に對する二百二十人の少數にして、更らに田舍に至りては、其の死亡數は大減して、幼者の死亡するもの極めて稀なり、年々ロンドン市に於て、下痢病の爲めに死亡するもの、三千五百名の多きに達すれども其中二千五百人は悉く滿一歲の以下の小兒に起れるものとす、下痢病より直接の死は免るゝを得るも、夫の疾病の爲めに苦しめらるゝものは、擧て數ふ可らず、稍ロンドン市に於て、尤も普通の疾病の一なる、(英吉利病即ち佝僂病)の如きは、そのために直接に不幸の結果を來す等のことは殆ど尠しと雖も氣管支炎又は他の諸病の誘因となりて、終極一二年の行程中に在ては恐る可き結果を生ず、之等下痢病佝僂病等の直接原因なしとするも、幼少時代に於て不適當なる食物を採取せし結果一般榮養不良に基き、成長發達は阻害せられ、心智上に

又肉體上に不完全なる小兒の外强健不病なる小兒は、得る能はざるに至る可し。

英國公立小學校の表示する所に依れば、年少の童兒に早く敎育を施すよりは、寧ろ佳良なる食品を與て、敎育を稍々延期する方大に好成績を示せしと云ふ、如斯巨多なる幼者の死亡數は一國民に採りては、非常の經濟上の損失ありとす、何人も一國民の進步發展は一國民の生氣如何に依る事實をば否定せざる可し、隨て小兒の數多ければ多きに準して一國の國運の進步國勢の伸長は益々速なるは一目瞭然の事實なりとす、然るに世界各國に於ける、出產の步合は晩今大に減少せり、隨て英國も之の數に洩れず、近來出產者著しく減少せり故に此際英國々民たる者は苟しくも出生せし小兒は充分保護成長せしむ可く、百方盡力すべきは只父母としての義務なるのみならず、英國臣民としての義務なり。

死亡數より生ずる一國經濟上の損失を他として、猶不完全なる發達に基因する著しき經濟上の損失あり、蓋し一國民としての小兒の價値は、夫の健康體力の如何に依る者なれば、若し之等にして阻害防遏せらるゝことあらんか、隨て夫の經濟上の價格損減せらる可きは、正に當然の事實なりと云ふ可し、故に小兒補育問題は、一日も忽緒に附す可からざる一國民刻下の急務なりとす。

國民の體格は、一般日常の食物及其周圍の衛生狀態に依ると雖も、一定の食量は尤も重大なる關係を有す、國民一般健康衰退の事實に關しては、一時天下の問題となり、甲論乙駁諸說拔然なりしも、若しも此の事實にして信ならしめば、夫の衰退を防止して百方之れが恢復を計らざる可からず、先夫の第一着步として、之れを嬰兒補育上に計らざる可らず。

抑も嬰兒補育方法に三種あり、一は嬰兒を全く母乳のみを以て、補育し、二は母乳と人工的食料と相半し、三は單に人工的食料を以て補育するものとす、統計學の表示する所に依れば、小兒の死亡は實に夫の補育の如何に基因するものなり、慈母の溫き

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

胸中に在りて、其の乳房に依りて撫育せられたるものは、人工的食物に依りて補育せられたる小兒に比較すれば、殆ど死亡數皆無と云ふも、過大の言にあらず、母乳と人工的食料とに依りて、補育せられたるものゝ成績は其の中位を保持せり。

體健なる母體は、夫の小兒の消化力に貢獻し、之れを助長せしむること少々なりとせず、然るに自ら補育することを拒みて、替ゆるに人工的食品を以てすれば、小兒は如斯消化力發展助長さるゝことなし凡ての婦人委く嬰兒補育に適せるものにあらずと雖も、一般の法則として、各婦人委く夫の小兒看護の職責あるものとす、殊に出生後二三ヶ月の間は尤も然りとす。

年漸く長じて三ヶ月四ヶ月の後は、人工的食料を採て之を補育するも、夫の危險は比較的尠しとす、猶カントレー博士は、進んで宜しく工場法内に工女等の生産後二三ヶ月嬰兒あるものは、或る規定の月數を經過するにあらずんば、再び來りて仕事に從事するを得ざらしむるが如き、條文を挿入記載せられんことを主張し、工場法中に一度該規定を制定せば、疑もなく職工の一階級の間一大勢力となり、充分好果あらんと論ぜり、人乳は疑もなく、嬰兒に採りては、最良なる食物なり、然りと雖も小兒に對する注意は、只に出生後に於てのみならず、夫の未だ母體にある中に相當の注意を拂れざる可からず、隨て夫の兩親は己等の健康狀態に注意するを要す、蓋し虛弱なる兩親は強健なる小兒を得る能はざるは、殆ど一般の法則なり。

未だ何等結婚制度に附て、一定の法律規定なきを以て、先天的に或は後天的に結婚に不適當なるものも、隨意結婚して、夫の不健全なる小兒を擧ぐるの例尠からず。

妊娠期間にありては、妊婦は日常飮食せるより猶多量を食し、充分の運動を取るを必要とす妊娠期間に於ける小兒に妊婦の妊娠期中に於ける心的狀態の夫の小兒に殊種の印象を與ふる事實は、充分的確な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る立證事實なしとし、博士は世間幾多の事實を單に偶然の適應なりと論斷せり。

完全圓滿なる母としての資格は實に年齡二十五歲より、三十五歲までの分別盛り期間に、已に一人の子ありし者を尤も善じとす。姙婦は中度に肥滿し、營養佳良なるを要し、充分肥滿せるの必要はなしとするも、完全なる健康狀態にあるを要す、又健全良好なる齒牙を有すると、倶に、健全なる消化力を有せざる可らず。

姙婦は務めて性質を靜かにし、強度に感情的なる可からず、然らずば情に激し易くんば、遂に夫の情感の奔逸に任せて、之れを制整する能はざるに至る可きなり、又道德的に完全ならざる可からず、又夫の生活狀態は極めて單一又規則的ならざる可らず、且一定の時間に寢に附くを要す。

之れを事實に徵するに、一般圓滿完全なる母としての婦人は、共に生活するには稍々單調無味なる婦人なり。

勞働終れる母體は、乳汁の分泌を盛ならしむるに必要なる適宜の休養終りて體力の復舊すると同時に、夫の小兒を取りて、之れに乳を補給す可し、生後二三ケ月間、少くとも母親は嬰兒を二時間每に乳汁を補給するを可とす、殊に生後五六日間は殊に然りとす。

博士は尙生後一週間の間は、決して嬰兒に蓖麻子油若しくはバタと赤砂糖との混合物を與ふ可からずと、論じ、大に聽衆を驚かせり、博士の說に依れば、之は單に小兒の消化を攪亂して、其の消化力を減損せしむるに過ぎずと。

嬰兒生後二三日間は、母體は概ね些少の乳汁をも分泌せず、該期間に於て、小兒に何等の飲料食品をも補給するは、絕體的不必要なりと。

生後二三日の間、母體より全く乳汁の分泌なく、或は尤も僅少なるの事實は先づ食物を消化するに先ちて、外界の生活狀態に習はしむる可き事實の表彰とも見る可きものとす。

生後三日を經れば、朝五時より夜の十一時まで、二時間毎に小兒に乳汁を給與するを善しとす、乳汁給與上に於ては、適當なる間隙あるを要す、之の事實は、尤も重大なる事件にして、夫の時間普通は六時間を以て尤も適當とす。

屢々にして且正則なる看護は尤も必要にして、不規則なる事實より起る不幸は之れを他の原因より起るものに比するに頗る多しとす。

嬰兒は規則的に補育せられ、又適當なる時に眠より覺さざる可らず、一般母親は小兒の號泣する度々之れに乳汁を與ふるを宜しとす。

普通嬰兒の號泣は消化不良を表白するものにして、夫の要する所のものは凡て僅少の白湯なり、若し母體尤も健全ならば、生後九ヶ月間は母體の乳汁を以て發育するを最も善しとす、離房は生後九ヶ月の後に始めて十ヶ月の終りに於て之を完備す可し。

博士は小兒に格別の障礙なき限りは、生後九ヶ月間は、出來得る限り母親をして嬰兒看護の任にあたらしめんことを盛に奬勵せり。

生後凡一ヶ月間人工的食料は危險あるの憂あるを以て、母親自ら嬰兒看護の任に當るは、殊に重要なる事柄とせり。

嬰兒補育中の母親は一日に一食の肉食を以て足れりとし、夫れ以上を採取するものは極めて稀なり、母親の斷食は尤も有害にして宜しく居常適度の運動を取るを要す。

普通嬰兒補育中の母體は、幾分かのアルコホルを必要とするかの如く思考するは絶對的誤謬なり、一般の法則として小兒補育中にある母體は一滴の刺戟的飲料を採取す可きにあらず。

然れども平常アルコホル分を飲料として使用せし身體虚弱なる婦人は、中食に於て約半パイント（吾一合五勺半）のアルコホル性飲料を飲用するも、格段なる防害なし。

嬰兒補育中の母親のアルコホル使用は單に不必要なるのみならず、反て屢々有害となり、或は飲酒癖に

沈面するに至る。

小兒補育中小兒の體量極めて不平均にして、一定ならず、頗る不規則に增減するときは、充分夫の源因を探究せざる可からず、普通夫の原因は多く賦與する食物の量に依るものにして、或時は多額の食料を與へ、或時は然らざる等頗る不規則なると、又適度の運動の缺乏に基因するものとす。

離房は極めて之れを緩慢にし、漸次人工的食料に習はしむるを要す、決して急遽に行ふ可らず、卽ち先づ初週に於ては一度乳汁を廢して替ゆるに人工的食料を以てし、第二週にありては三回と漸次如斯して離房せしむるを可とすと、辯者演壇を降るや、ウヰルアム、チヤーチ氏立ちて前辯者の演說に稱讃的讃辭を呈し、演者の云へる凡てを是認保證せり。

氏猶諸場に雇はるゝ婦人にして一日も早く母親としての義務を免れんことを希望せる者に對して、女工使用法規に言及する所なり、之の問題に一般小兒の健康狀態に重大なる關係を有する大問題にして頓て國民の安危存亡に關するものと痛論し、舉ぐるに猶太婦人の能く母としての義務を解し、生後一年間は母親自ら夫の幼兒の補育看護の勞を宗教上の義務と心得彼等の大多數は一年以上自から補育抱養の任を喜んで取る事實を舉げ結論せりといふ



衛生雜話

醫學士　石原喜久太郎

◎暖室法の話

是より時候も寒さに向ひますから今回は一寸暖室法の事に就きて述べましやう、

暖室法には普通二ッの區別がありまして、一は中央暖室法と云ひ、家屋の一定のヶ所に暖室裝置を設け、之から各室を通じて溫めるやうになッてゐるのです、一ッは局處暖室法と云ッて其室々に、各々獨立

の暖室裝置を設けるのを云ひます、前者は鐵管を通じて蒸氣を送る暖室法などは其例であります、後者に於ては「ストーブ」で一室を暖めるなど其例であります、

右の區別はもとより歐米の暖室法を基としたものでありますが、日本でも無論兩法共行はれ居ることは皆さまも御承知の通りです、處で日本に於て最も普通なるは

（一）日本固有の局處暖室法

即ち、爐とか、火鉢とかに炭火を入れそれで室を温めるのであります、私は先般緒方博士の御演説になりました事柄を基と致しまして玆にお話申上げましやう。

（二）火鉢より出づる毒瓦斯

火鉢に、普通の木炭火を入れて置きますると、多量なる炭酸瓦斯幷に少量なる酸化炭素瓦斯と稱する有害なる瓦斯が發生致します、此二種の瓦斯は共に人間に有害のものであります、凡そ室內の空氣の善惡を判斷致しまするには、其內に含まれてゐる炭酸瓦斯の分量の多少を以て標準と致すのです、之が多ければ、其空氣はよろしくない、健康に害がある、夫故に其室の換氣をよくするとか、又は炭酸瓦斯の發生しないやうにするとかそれ相當の方法を講じなければなりません、次に酸化炭素と申しまする瓦斯は炭酸瓦斯よりは一層有毒の瓦斯でありまして之が多くあれば、中毒して死に陷ることがある程に危險のものであります、それで、凡そ

（三）火鉢から幾何の兩瓦斯が發生するや

と申しますに緒方博士の實驗によりますと、炭火に極近い處の空氣中で炭酸瓦斯は普通注意分量よりは六十倍も多くあり、酸化炭素瓦斯も充分害毒を逞ふするに足るだけ多量にありました、右の注意分量と申しますのは、室內の空氣に炭酸瓦斯がコレ以上あれば其空氣は人間の健康に害があるかと云ふ事を示すのでありまして通例空氣中に炭酸瓦斯が千分の一あれば旣によろしくないとしてあります依是而考え

ますると盛んに火を起してある火鉢や爐の極近くに顔をそろえて人と話をしてゐるなどはよろしくないので、暫くすると顔が赤くなり頭痛が起るなどは此毒瓦斯の作用であります、

(四)炬燵の毒瓦斯

冬分炬燵(又は「あんか」)は全國とも隨分廣く行はるゝ所でありますが、是亦、其内の炭火より多量に有毒瓦斯の發生することが明かであります、是迄婦人が小兒を抱いて、炬燵で寢かし置きしに、小兒は顏が炬燵蒲團に蔽はれてゐた爲めに死んで居ッたと云ふ例もある程です、處で緒方博士の實驗により、まずると、炬燵内の空氣にも炭酸瓦斯は注意分量より四十倍も多量にあり、また、酸化炭素も多量にありましたが、夫故に、炬燵内の空氣の危險なることは實驗的に明瞭になりました次第であります、

(五)日本座敷と火鉢

嚴冬の頃には、お座敷で煖を取る場合に、室が大なれば、火鉢一個位では仲々溫かくならぬから、二個も置く、其時炭酸瓦斯がどの位出來るかと申しますに、障子を占めて置いて一時間ばかり經ッとやはり注意分量の三倍位にも達するのであります、

以上述べたる處によりて、注意すべきことは

(六)火鉢と衛生

の關係なり、日本の座敷に火鉢を置く時は、よく空氣の交換に注意して、時々障子を開くとか、或は障子の上の隅を切り拔いて置く等によりて換氣を良くするの必要があります、然らざれば健康を害する虞があるわけですから、

(七)大和煖室爐

と云ふものがあります、東京には割合に廣く行はれます、此物は其形「ストーブ」のやうな構造で、烟突はないけれども、内で木炭が良く燃ゆるように出來て居ります、私が此春寒い時分に試みましたのに、八疊の座敷で、一方は障子で、他の二方は唐紙で餘の一方は床のある室でしありましたが、室内寒煖計が攝氏五度(隨分寒さのきびしい時でした、之は丁

度華氏で四十度ばかりてす）の時に大和暖室爐に、「さくら」炭、二寸切り位のもの八個許を入れて燃やしました、火が盛に起りて、一時間の後には室内の溫度が段々上りて攝氏の十五度許に達しました（華氏の約六十度）割合によく溫まります、然るに暫くすると頭痛を感じました、私ばかりでなく、其室にゐた他の者も頭が重くなりました、是は構造がよく出來てゐて、木炭がよく燃えますから、隨て、また多量の炭酸瓦斯を發生したる爲めであります、それて私は、大和暖室爐の上部に小さい「ブリキ」の烟突を附けて障子の一ツの「こま」を貫ふして室外に導いたならば室内に惡瓦斯のたまるのをふせぐ事が出來るであらふと考えて居ります、しかし、そふすれば幾分か、室の溫まり方が減るであらうと思はれます、と云ふのは、爐の內で溫まッた空氣が、室內の空氣に混ずる爲めに室內の溫度が上り得たのであるが、それを外の導き去れば勢ひ、室が溫まりかねるやうになりましやう、夫に就きましては、更に今迄の構造を少しく改良すれば幾分かよくなることゝ、考えて居ります、何れ此暖爐の事は更にお話致す折もあらふと存じます、

（八）石油暖爐

東京では銀座邊の店で販賣して居ります、之は隨分よく溫まりますが、やはり大和暖室爐と同じく、烟突がありません、けれども私は、之が、どれだけ室內空氣を汚すかは、まだ試驗致しませぬので、何とも申上げ兼ねますが、此暖爐も、日本のお座敷用にはよく適當するやうに出來て居ります、石油もそれほど、多量を要しませぬ、いづれまた改めて申上げ度ふ存じます、

（九）「おんどる」

朝鮮では床の下から室を溫めるやうに「おんどる」と申すものが御座りますそふです、私は其寫眞を見ました、あちらでは、家屋の構造が日本のとはちがい、また、家屋構築の材料も違ふし、且ッ一般に家屋の坪數が小さいので「おんどる」は至極適當してゐ

る事と存じます、此物は、寒い時分に一度焚き付けて置くと、床土が温まッて大厨室が温かくなるそふです、又室内には汚れたる空氣が混ざらぬので甚だよき考案です、日本でも之を作ッたらよからふと云ふ人もあります、しかしながら日本では、家屋の構造を改めぬ以上は之をまねて用ふることは出來ませぬ、また朝鮮の如き一般に小さき家ならば「おんどる」を作るは容易であるけれども、日本では一般には六ヶ敷かるべしと信じます、極々寒い地方で、一室位を土か石かで床を作くり其下に「おんどる」を設ける位ならばよろしからふと思はれます、「おんどる」は朝鮮に於ては單に煖室の目的にとゞまらず、また、乾室の目的に用ゑられるそふです、と云ふのは、霖雨の爲めに家が大厨濕りまするど（朝鮮の家屋は厚く土をぬり上げてあります）それは乾はさんが爲めに夏でも「おんどる」を焚くそふであります、是亦必要なる事でありましよふ、凡そ、一般に、家屋衣服の事を考えて見ますると、各國、それ〳〵其國の氣候や、土地の狀態に應じて自然に適應するやうに發達して來たものである、露西亞では、冬の寒さがきびしいから、窓を二重に作つて置く、日本では兼好法師は

「家のつくりやうは、夏をむねとすべし冬はいかなる所にもすまる、あつき比わろきすまゐはたへがたきことなり」

など、云はれしはさもありぬべきことなり、露國に日本家屋を移し難かるべし、されども、萬國交通の今の世なれば、よその國々の事をも調べて、そのよきふしを取り己れに益するは願ふべきわざならん、現に日本家屋の構造も、其一部分宛は漸次改良せられつゝゆけり、見給へ、「ガラス」戸を締めたる南向きの室は冬の晴天の日如何に煖きかを、



大家叢談

●瘰癧

恐哉稿

この頃學校衛生がやかましくなつて來たせいか、體格試驗の節學校醫に診斷をうけたら、瘰癧質だと云はれたと云つて、子供が歸るや否や、家内大騒ぎ、早速しかるべき醫師の診斷をうけるなどと云ふ話をよく耳にする、そこで一寸瘰癧の事を御話ししよう瘰癧と云ふ語は、獨逸語では「スクロフローゼ」と云ふが、之はもと羅甸語のスクロフラ「豚」と云ふ字から來たので頸のはれてゐる事を意味したものだ、尤實際でも此瘰癧質の人は頸にある琳巴線がはれだして恰かも首が胴にすぐ、附いた樣な、まるで豚の樣な猪首になつてくる

ところで瘰癧と云ふ病の定義を下して見ると、まづ小兒の時分に起つてくる全身の病で、血液の性質の惡い爲にくる病氣と云つてよかろう、血液の性質が惡るい爲に、全身内の諸の臓器が、薄弱であつて、内外からの危害に耐える力も少いし、また已に侵された病氣を征服する力も少ないので、こう云ふ身體では自癒の力がまことに弱い、例へて見れば皮膚に創などが出來てもなか／＼になほらない、云ひ換ゆれば、健全な普通の小兒ならば二三日で癒ゆるような病氣も時によると一週間以上たつてもなほらない樣な事がある、だから此瘰癧と云ふ病氣自身も治りにくい病氣で一度之にかゝつたら、治りかけては、また風邪などをひいて、後戻りをしてくる事が多い

此瘰癧と云ふ病の原因に就いては種々あるが、歸する處兩親から遺傳するのと、生後にかゝるのと二つにしかすぎない、遺傳の方では、兩親兩方が此瘰癧だつた時が一番ひどい、だが何も之は兩親が子を作つた時分に瘰癧質であつたと云ふ場合ばかりとは限らないで、其兩親が矢張り若い内に其樣な體質であつたと云ふ事も關係する、其他兩親が弱い人で病氣にかゝつて居る事、例へば結核だとか、梅毒、マラリヤ、リユーマチなどの慢性病にかゝつて居る際、此兩親の子供は多くは孱弱で、病に對する抵抗力も弱く、ぢきに瘰癧になりやすい素因を持つてゐる、また經驗によると血族間の結婚が其子孫に瘰癧にな

りやすい素因を與へるが、此點に就いては牛馬を牧畜してゐるものが、其動物を二三年には他の種族の牛馬と交接させて、漸次動物を改良させて行くのを見ても明らかな事である、だが此血族結婚なる事は地方では隨分行はれてゐる樣だ。

次に生後此病にかゝる方はどうかと云へば、兩親は至極健全で、とても瘰癧などゝ云ふ譯でなく、生れてから一二ヶ月、時には十一二才の折までも至極健康に育つて來て其時分に瘰癧と云ふ診斷をうける事がある、此樣な場合には、從來健全であつた小兒が何にか、外部よりの原因があッて、其平生の發育を阻げ、遂に瘰癧にかゝらせるのだ、一般に小兒の身體と云ふものは、其發育の爲めに必要な食物を要するもので、少しでも其營養を誤つたり、惡るい營養品を與へたりすると、いまゝて健全の小兒もたちまちに弱くなつてしまうものではあるが、瘰癧にかゝりやすい原因にも之は大に關係がある。

一般に食料と云へば、無論肉や乳汁も含まれてゐるが、之よりももつと必要なのは空氣の良否である。空中の空氣は主に窒素と酸素とから成つて、窒素は七十九分、酸素は二十一分であるが、窒素の方は吾人の生活の爲には毫も入用がないて、酸素の方が入用なのだ、フォールヲルト博士の計算によると健全な大人が一日廿四時間内に吸入する酸素の量は七百四十四瓦たそうだが、この樣に多量の酸素が終日必要なのであるから、此大切な食料の善惡によつて非常に一日の酸素の量にも關係を及ぼしてくる、例へば室がせまくて、空氣の流通が惡るい處に多人數住居して居ると、漸次に空氣中に炭酸瓦斯や有毒の物質が混じて來る、之が暫時の間ならばいゝが、一月、一年とつもつてくると四時絶え間なく吸入して居るものであるから、遂には體内の新陳代謝作用を惡くし、漸く營養も惡くなつて瘰癧にぢきかゝりやすくする。

（以下次號）

●小兒の下痢と腰湯

今年は小兒の下痢が頗る流行して赤痢も又大分發生

しますが群馬縣地方は最も猖獗ですから子を持てる母親は決して油斷をしてはなりませぬ併し嚴しく下痢した時ホンノ一回か二回僅かに血が交ざつたとて決して大騷ぎをしてはなりませぬ瀬川博士の談に萬一小兒が不幸にして下痢を醸したなら直ぐに飲食物の量を減じ平生の半分か乃至は三分の一位にて成るべく柔らかいものを與へ暖うして腹部はフランネルの類をもつて纏きつけ冷さないように仕なければなりません下痢を仕たとき腰湯を使はせる抔の事は少し考がへものです、腰湯は腹を温めるから効能のある事と素人の方は考へられようが夫れは子供が熱のない時の場合です、熱のある時腰湯を使はしたら直ぐ病氣に障ります、處が子供は下痢をすると多くは發熱を伴ひますもの故、腰湯は醫師の差圖を受ける迄見合はせる方が安全であります

▲水道栓の注意　子供の下痢を起す媒介物は多く水でありますが、之れに就て近頃能くある例ですから母親に御注意して置きたい事があります、夫れは東京市内には水道が多く布かれてあるので幾ら嚴しく母親が水を飲む事を禁じ甕や手桶へは水を容れて置かず、容易に水を飲めぬやうにして置くとも子供は自由に水道栓をひねつて夫れから飲みます、自分の家で飲むことが出來ぬと他家へ往つて飲むし甚しいのは共同栓へ汲みに來るのを待つて居て飲まして貰ひます之れは子供の下痢する媒介の一ツで今年のような腸加多留の流行する時は水道栓の注意を怠つてはならぬと思ひます

▲下痢と食物　病後の快復と云ふ事は六ケ敷い事で腸加多留を病んだ子供には能く大便の模樣を見て夫れから飲食物を適宜に取らせるように仕なければなりません一度下痢すると其の當座は僅の事にも胃腸へ感じて又下痢を起すようになります兎に角飲食物は一寸も油斷がなりません云々

●大日本私立衛生會總會に於ける大澤醫學博士講演の一節

博士は社會的衛生と云へる演題にて近時の衛生的狀

態を縷述せられ最後に社會衛生の一部分なる交接及生殖の生理的不適といふ題に就て頗る有益なる左の講話ありたり

此不適と云ふ言葉は通常餘り用ひぬ言葉でありますが、不能と云ふのは其官能を營むことが出來ない、不適と云ふのは營み得ないことはないけれども不適當であると云ふのであります、交接の爲め自身又は他の關係者に害を及ぼすべきものは交接不適者であります、關係者及び受孕の產生物に害を及ぼすべきものは生殖不適者である、男子の方は受精の時の外生殖に餘り關係はない、間接に妻女又は子供の運命に因りまして影響を受けることはありまするけれども、餘り關係はないと云つて宜しうございませう、又交接不能の者は生殖不能でございますから、是又夋て御話する限りでない、交接をなし得るも生殖の不能なる時は生殖の爲に害を受けることはない、夫故に生殖不適といふことには是又關係はないが、交接に適するや否やと云ふことは問題になり得べきてある、斯る場合も屢々ありますけれども、普通は交接幷に生殖を爲し得るけれども、之が爲に害を受けることが有るや無しやと云ふのが普通起る問題であります、就きましては色慾、交接慾、生殖慾とは何の謂歟又如何にして此の色慾なるものが發生致し來るやと云ふやうなことも御話致すべきてある、又動物に於ける狀態と人身に於ける狀態との御話も致さうと思ひますけれども、時間が之を許しませぬ故に省きまして、先づ人類の交接不適の事を御話を致しませう。

餘りに年若き者は宜しくない、春情の發動を致しまするは生殖機能の始まりまする時でありますけれども、併ながらまだ十分に身體も成熟を致さず、隨つて生殖に關係ある物質の構成も不完全でありまするが故に不適であります、是は牧畜者などが經驗を致して知つて居りますることで、彼等は決して若いものは交尾させませぬ、又年の老ひたるも宜しくない、女子に於ては此時期が明かに分るのであります、

月經の閉止致しまするのが其しるしでありまして、其時になりまするど、生殖器に段々變化が起つて參りまして、生殖に不適當にはなつて參り、色慾の次第に衰へて參ります、女子には此外に又交接を避くべき時期があります、月經、産褥、授乳の時、是等は交接の不適當なる時であります、産後餘りに早く交接を致すと、月經の開通を促し乳の分泌を止めると云ふやうな害があるのであります、妊娠中も矢張不適當であります、妊娠の初期に於きましては流産を促しまするし、末期に至りましては種々の不良なる結果を來します、それからして自身幷に他の關係者の爲に交接を絕つべき病氣があります、慢性病にして營養不良の者、重き急性病後の回復期、心身過勞の後及强度の神經衰弱、ヒステリー、舞踏病、癲癇、バセドー氏病の如き神經病、其他重き心臟病、血管硬變、慢性肺カタルの如き局部病の者も之を愼まねばなりませぬ、特に注意致すべきは梅毒、痳病結核及癩病であります、是等の病氣のある者は交接不適者である他人に傳染することがある故でありまして、其病の狀態幷に如何にして傳染を致すと云ふ經路などに付ても御話を致す考へでありましたが、時間がないから略します、土肥博士が國家醫學會の席上で話されたることがありますが、大層文章が能く出來て居りますから讀みませう、是は痳病と家庭と云ふ題でありまして、痳病が如何に家庭を害するかと云ふことに就て述べられたのであります。

『妙齡の新婦が結婚して未だ數日ならざるに卒然發熱し顏面蒼白となり、身體疲勞して其訴ふる所を聽けば、尿意頻數となり尿道及膣口より多量の濃漏あり腰部若くは他の關節又は筋肉中に疼痛を覺ゆと云ふ、嗚呼清淨無垢の新婦は今や其夫の結婚前に於ける遊蕩の犧牲となり、淋菌は新鮮なる處女的培養基の上に移植せられて猛然猖獗を逞ふし、僅かに一ヶ月を出ざるに子宮內膜炎を起して喇叭管膿腫を作り速に切開するに非ずんば腹膜炎の爲に芳眼長へに閉ぢて花唇復た動かざるに至

る事數日を出ざるべきなり、幸にして一生を九死に救得たるも病婦は長く蓐中に呻吟し數月の後に至りて僅かに起つも、嬋妍たる曩日の姿態は復た見る可らずして憔悴枯槁快活の氣性は何時か變じて憂鬱症となりヒステリーを續發し加ふるに不妊症を醸し家庭常に落寞として春風復た堂に入らざるの境遇に一生の不幸をかこつもの世間往々之を見る豈に其例に乏しからんや」

斯樣に申して居ります、是で如何に恐るべきものかと云ふことが御分りになつたと思ひます、私は更に進んで生殖不適、子を造つてはならぬと云ふことの御話を致す考へてありましたが未だ大分貴重の御演說のありますのに私のみで時間を潰しましては甚だ恐縮の至りと思ひますから、後は雜誌に掲げる事に致しませう若し又明日の支會に於きまして演說を許されることでありますれば仕合でございます、今日は是て御免を蒙ります云々。

▲婦人と步行　愛國婦人紙上鄕濱子氏の戰爭に依つて得たる經驗と云へる經歷談中婦人步行の必要を說かれしが實に至言と思はるゝの節多ければ左に之を抄錄せん

◉婦人の步行　私が常に思うて居りますのは我國の御婦人方で步行の習慣をつけられたき事で御座ります平時東京に居りましては一寸外に出ますにも人力車があり電車がありますで餘り步行が出來ぬからといふて格別不自由の事もない樣で御座りますがさて一朝事ある時に際しましては之が爲にどの位困難を增し危險を重ぬるか知れません現に北清事變の際に保定府といふ處から天津迄三日三夜義和團に追はれつゝ逃げて來た外國婦人の一隊が御座りまして其中には年の往かぬ人もあり老人もあり病氣のもの妊娠の者もあり負傷したものもありましたが遠路の處能くも逃げおほする事が出來たものと私はほんとに感心いたしました之は畢竟西洋婦人が平生步行をよくする結果で之が爲に

義和團の辱めを受くる事なく一命をも全うする事を得たので御座ります若しも是が常に歩きつけぬ我國の婦人でありましたならば如何で御座りませうこゝを思ひますと平生歩行はよく慣らして置かねばならぬ事と存じます殊に平生歩行するといふ事は私が申すまでもなく經濟上衛生上一擧兩得で御座りまして又日頃ならしさへしておけば一日二日歩行きましても格別苦痛を感ずるものでは御座りません私共は私を始め娘子供まで必要の外は車にも電車にものらぬ事に致して居りますが之が爲に餘程體の健康も助けましたし又この節では歩行く事を少しも苦にせぬ樣になりました彼の學校の送り迎へにも車を以てし一寸買ひものに行くにも電車にのるといふ世の御婦人だちは少しく御注意ありたきものと思うて居ります云々。

▲俳優の長命　松井松葉氏は此頃俳優の長命を調査せられたり今其大要を記さんに俳優は日本にても外國の例によりても長命なるものが多い先づ初代の團十郎から穿鑿をして見るに

初代團十郎	五十四歳	二代目	七十一歳
三代目	夭死	四代目	六十六歳
五代目	不詳	六代目	夭死
七代目	六十九歳	八代目	横死
九代目	六十六歳		

右によつて見れば何れも六十歳以上なるが然らば團十郎の家系は長壽であつたかといふに菊五郎の家系で調べて見ても

初代菊五郎	六十七歳	二代目	夭死
三代目	六十六歳	四代目	五十三歳
五代目	六十二歳		

其他の俳優にも長壽は既に珍らしくなし杜若半四郎は七十二歳、六代目團藏七十二歳、四代目八百藏七十三歳、三代目彦三郎七十五歳、四代目同七十四歳、二代目三津五郎八十歳、松助七十一歳、多見藏九十歳、片岡仁左衛門八十歳、仲藏七十八歳、山中平九郎八十三歳、五代目幸四郎七十五歳、元祖の宗十郎七十三歳、

四洋にては如何といふに是又長命多し

ウイルクス	八十八歳	ベツタアトン	七十五歳
クライブ夫人	七十五歳	リーレー	七十五歳
ベアド	七十五歳	レフイー	七十八歳
ジヨンストーン	七十八歳	キング	七十八歳
ヴインニング	七十八歳	ウアラツク	七十八歳
ダウトン	八十八歳	コーレーシツバア	八十六歳
エート	九十七歳	マツクリン	百歳
クイン	七十三歳	ポープ	七十三歳

其他何れも長命せるものゝ甚だ多し蓋し俳優の斯く多

く長壽を保つ所以のものは何にかと云へば要するに身體を十分に運動せしめ或は大なる聲を發し肺の吸呼を旺盛ならしめ隨つて運動と共に消化好良を來し食慾は甚だ盛んとなるが故に是ぞ長壽を保つべき第一の原因ならんといふ聞く處によれば俳優には普通の人よりは大食家多しといふ運動と消化の然らしむる處なるべし尙俳優長壽の關係に就きては尙大に講究せる所あるべきも大要長壽は運動の如何に起因する處なるべしといふ

●衞生坐右銘

醫學士　竹中成憲君

衞生の道は慾を節するに在り口に美なるものは胃に害となり易く良藥の苦きを見ても之を知るべし病者の望むものは多くは醫の禁ずる所安臥は爲し易く運動は難し食を擇び身を淸め空氣新鮮に日光射入し寢具乾燥せば其裡に百年を送る事いと易きものなり





質疑欄

●●●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知をこふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御通知の事●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　地方の一會員

問　肺病に感染したるときはドンな心持ちのするものにやくわしく御敎示願上候

答　俗に申す肺病に感染しましたときは多くは第一に體量が減ッて參りまして食べ物がうまくなく所謂食慾が減じて來て嘔吐を催すとか息き切れがしたり頰の邊が赤くなつたり寒冒に罹り易く胸が痛み若くは「リウマチス」の樣な痛がしたり又肩のこるのもあります顏面がナントなく靑白くなり咳嗽が長く續き時々不正の發熱がしたり夜分は寢汗をかき血痰と云

ふて血液の交りたる痰の出る樣になつては大に警戒せねばなりませぬ一體肺病と俗に申すのは肺に結核菌が附着して蕃殖するから申したので肺ばかりでなく此菌は皮膚の上にも腎臓や膀胱にも關節にも脊髓にも肋骨、耳にも目にも諸所に發生するものでありますから初期に於て早く治癒せしめねばなりませぬ

質問者　山間の一女

問　田舍では大概麥飯を食べるものが多く皆至て壯健ですが米飯は寧ろ多く食するときは脚氣病など起し毒となるものに候はずや伺上候

答　田舍の人は麥飯を食べ居るが爲め强壯と云ふわけではない田舍は空氣もよく勞働も盛んであるからなので脚氣病との關係は未だ不明に屬して居りますが滋養の點から申して見れば米の方が遥かに勝つて居るのですからあまり腦などをつかわず勞働する人は麥飯を澤山に食べれば米の飯を少し食べたのと同じ事になるのですが腦ばかり使つて勞働などをしない人は米の飯や肉食を混用するのが尤もよいので嘗て醫科大學の生理學教室で試驗した結果によりますと米の飯の中にある蛋白質は其五分の四迄は身に付く滋養分であるが麥飯の中の蛋白質は其只半分位しか身體の滋養にならぬ其他は皆大便と化して出て仕舞うのであります乍去いくらよい物を食べても運動と伴はなければ矢張何の爲めにもならぬのでありますす左に米と麥との分析表を示しましやう

	蛋白質百分中消化する分	消化せざる分
米飯第一	八一、二	一八、八
仝第二	七九、〇	二一、〇
麥飯第一	四〇、三	五九、七
仝第二	五一、九	四八、一
仝第三	四八、二	五一、八

質問者　山梨一會員

問　菌の中毒には如何なる處置を致してよろしきや

答　菌に中毒したるときは直ちに微溫湯を多く吞み手の指を咽に入れて吐き出さしめ玉露の茶を盛んに飮ますことよろし而して早く醫師を迎へて下劑をかくべし總べて菌は色美くしきものは毒ありと知るべ

し變りたる菌類は食はざるをよしとす菌は長く煮るときは其汁に毒の浸出して汁のみを啜りしものは其毒に方ることありと知らるべし

質問者　美濃　田舎者

問　五歳の小兒折々ひきつけて困り候處捨て置き候て大人に及び候もヒキツケ又は癲癇などに相成候憂御座候哉只今の内に治し候事は六ケ敷候哉

二、二十一歳の女毛髪始め普通よりも澤山なりしに二三年前より追々と減じ只今にては實にすくなくなり誠に心細く候何にかよき療法御座なく候哉身體は强健と申す程に無之候へども衰弱いたし候様な事も御座なく候

一、答「ひきつける」と申すのは醫者の申す急癇と云ふ病氣ですが之れは腦病若しくは癲癇其他（破傷風）等の徴候ですから初期の内に適當の醫者の治療を受けらるゝことを御勸め致しますいづれも慢性てなければ治癒しないことはありませぬ

二、只髪の毛が薄くなッたとか少ないとかでは實は御返事に苦るしむので一體髪の毛などは身體の營養如何に關係のあるものであるから身體のドコカニ故障があつて血液の循環などが惡いと髪の毛には影響を及ぼすものでありますからよく前後の事情を聞き又は實診の上ならでは分りませぬが要するに髪の毛の澤山おありの時は身體の極めて御壯健の時であつたのです其毛の追々少くなつたと申すのは或は御産をしてから身體の調子が惡くなつたと云ふ様な事はありませぬか又は痳疾とか梅毒の氣のある夫があるとか或は他に何にか原因がありはしませぬか兎に角營養を充分にして身體を始めの様に丈夫にする様心懸けて御覽なされ又髪の毛が强壯の身體と共に生へて來るに違ひありません

質問者　群馬縣一會員

問　私事心臟病にて誠に困り入候如何なる藥用法よろしきや御敎授下され度候

答　心臟病に罹りました方は平常より注意して血の

循環を早むる樣な仕事をしてはなりませぬ即ち熱き湯に入る事や長湯、過劇の勞働、心配事はよろしくなし又風邪にかゝらぬ樣にして夜は充分に靜眠を事とせらるべし若し呼吸非常に苦るしくなり爪などが紫色となり顏、手、甲などに水腫が來り尿の量が減少した場合には決して身體を動かさぬ樣にし良醫の命令に從ひ靜養せらるゝことが必要です藥用法と・の事ですか之れは醫者でなければ貰らぬ藥が多いてすから申上げられませぬ尚心臟病の質問は本誌第百五十八號に出て居りますから御覽あれ―

會員M生、東京一會員へ答

ホーレル水(劇藥)のことは本誌第百六十一號にて解答致置候③澱分亞鉛華等分云々白粉の代りに御使用はいけませぬ夫れは「ニキビ」か御てきのできたときのことでしたろう平常塗るにはまだ外によいものが澤山御座いましやう

質問者　神奈川一會員

一、或先生の献立法として必ず香の物(野菜の鹽漬)を添へられ候が右は習慣にて用ゐる物にや又は衛生上効あるものに候や田舍にては毎々澤山用ゐ候もの故衛生上の價値伺上候

二、私叔父本年四十歲に相成候處稍眼の視力衰へたる由に候が右は養生としてスドーシの目鏡を用ゐると云ふ者有之候が如何に候や有養生法伺上候

一、答　食物料理の献立に野菜を用ゐるは日本も西洋も同じことでこれは自然の結果です野菜は血液を淸潔ならしむる効のある大切なものであるから餘り肉類許り食べて居りますと(海軍の樣に航海中野菜缺乏のときは)壞血病と云ふ病が起ります故に日本料理の献立に香の物を用ゐるは自然の必要から習慣となつたので是れは衛生上極めて大切なことです併し都會の人は田舍の樣に肉食不足で野菜のみを多く食することは出來ませぬ前にも申しました通り勞働する人は野菜や澱粉質を澤山食べて運動すると力が出ますが學問や商業や其他の事で腦をつかう事の多い人はドウしても肉食を多くして野菜を混用して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

用ゐねばならぬのであります
二、視力の衰へたならば眼科専門の醫師の診察を受けたる後近眼か遠眼かの判斷を乞ひ其眼に合ひたる度のある眼鏡を用ゐらるゝがよいスドーシの眼鏡などは塵除にはよいがよく見へる譯には參りませぬ併し成るべく眼鏡を用ゐざるも差支なき限は習慣を造らぬがよろし尙丹毒の事は次號に御答致しましやう

▲質問の方々へ
御急ぎの御質問は迚も間に合ひませぬから其御積りで又本月は澤山の質問蝟集して居りますが答解者病氣の爲め次號に讓りますから惡からず

中外彙報

▲陸軍衛生勤務補助規定　陸軍大臣は今回の戰役間醫科大學及官公立醫學専門學校の教授助教授等にして陸軍衛生勤務を幇助せんとを希望等する者のため文部大臣と協議の上左の取扱に依り之を許可することを規定せり、

醫科大學及官公立醫學専門學校の教授、助教授、教諭、助教諭、助手、副手にして今回の戰役に關し陸軍の衛生勤務を幇助せんとを希望する者は左の條項に依り取扱ふものとす
一、醫科大學及官公立醫學専門學校の教授、助教授、教諭、助教諭、副手（醫術開業免狀を有し又は之を受くべき資格ある者に限る）にして陸軍衛生勤務を幇助せんことを希望する（以下單に幇助員と云ふ）は陸軍大臣に申出て許可を受くべし
二、幇助員には官等相當者を本年勅令第　十三號に依り相當の待遇を與へ且つ囑託手當を給することを得
三、幇助員は陸軍の紀律を守り命令に服するの義務あるものとす
四、幇助員は豫備病院の勤務に服せしめ其勤務上に關しては當該病院長の指揮監督を受くるものとす
五、幇助員は主として治療に當らしむるを例とす
六、幇助員は衛生材料の使用に關しては陸軍の規定及當該病院長の指示に遵ふべきものとす
七、幇助員は之を要せざるに至りたるとき又は前諸項に背違する所爲あるときは陸軍大臣其勤務を解く
八、幇助員自己の都合に依り勤務を辭せんとするときは少くも一週日以前所屬病院長に申出て病院長は順序を經て陸軍大臣の認可を受け之を許可すべし

▲タウコギ草の無効　内務省東京衛生試驗所に於て此程肺患の唯一特効藥と喧傳されしタウコギ草の主成分に就き化學的分析を爲し左の成蹟表を發表するに至れり
タウコギ草は肺病特効藥なりとの說嘗に新聞紙に記載せられてより以來頻に民間に喧傳し延て其與

僞に就て本所へ質問を試むる向も尠なからず就中原料を提出して試驗を望む者あるに至れり依て該草審査の必要を認め過般採集したる本植物に就き成分の化學的檢索を遂行せり而してタウコギ草より得たる成分は左の如し

樹脂稍多し、揮發油極少量、蠟稍多し、苦味質極少、鞣酸（鐵液に由て綠色を呈する性あるもの）多し、粘液質多し、無機鹽類（硝石及び格魯兒加僧謨）多し

右分析の成蹟に據ればタウコギ草中より肺病に對して特に有効の望みある物質は一も之を檢出せず本會は初めより竹中醫學士の卓說を揭げて之を排斥せるか果して事實となり此發表に依りてタウコギ草の運命は全く終滅したるものなり

▲禿頭病と文士　此頃芝新堀町邊に禿頭病流行し時事新報講家及二六新聞記者堀紫山子も過般此病に取りつかれしと蓋し其の附近理髮店の消毒不完全なるより起りしものならんと紫山子は取り敢へず左の狂歌を物せしとぞ

常日ごろ筆を坊主にした報ひ
　　尻剝げずして頭禿げけり

自嘲

優しくも今道心となりにけり
　　白粉剝げの祟りある身は

▲脚氣と麥飯　今回の戰爭に於ける陸軍の脚氣病者は非常に多數發生の模樣なるが開戰前には各師團若くは聯隊等各隊長の考により米麥混用し居たるか戰時になつては一定に米飯を採用することゝなりし結果にや出征軍に脚氣症の多きは事實なり之に反し海軍陸戰隊には反之脚氣に罹りしもの極めて少なしと但し海軍にては高木軍醫總監の說によりて夙に麥飯のみを用ゐ居たるとに基因せるならんかと未だ醫科大學にても米飯と麥飯とか脚氣病に及ぼす理由はたしかに發見せざれども今回の事實により研究の好材料たるべしといふ

▲學位授與　北島多一（東京府士族）横手千代之助（東京府平民）田代義德（東京府士族）賀古桃次（福島縣平民）井上通泰（兵庫縣平民）の五氏は豫て論文提出學位を請求せられ居りしが去月十四日醫學博士の學位を受領せられたり

▲酢及醬油の殺菌力　北島博士論文の一節に日常吾人の攝取する食物たる「キャベツ」胡瓜、赤貝、魚肉各三〇瓦に虎列刺菌を混じ一定時を經たる後之に一〇瓦量の酢(尾州半田山吹印)を注入したるに野菜類は三十分間魚肉には一時乃至二時間を費さゞれば殺菌の效あらずといふ醬油(龜甲萬)も前同樣の試驗をなせしに六時間を費すも何の影響なし而して純粹醬油に虎列刺菌を混じ其生存を試るに一二時以上を經ざれば死せすと

▲日本に於ける癩病に關する二三の注意　田代博士の研究せられたる說に百十二名の癩病患者中二十一名は女性にして何れも血氣盛んなる強健者に最も多きことを確かめられしといふ而して臨床上皮膚癩と神經癩の區別ありて初期の症狀としては上、下肢即手足に顯はれたるもの五十回顏面に於て十六回肩胛部に於て屢々臀部に於て三回最も早く其發現を見たるも他の各部胸腹部には初期の症狀を見たることなしと五十名の患者中三十一名は異感を訴へたることと十六名は斑點唯三名は結節を初診の際訴へたることありと氏は隨て顏面若くは手足に於て限局性異感或は無痛を示す部ありと訴ふる者に會するときは先以て癩患者ならずやと考ふるといふ

▲好一對　乃木將軍第三軍司令官となり遼東に上陸せられ途金州南山を過ぎられし時一詩あり

山川草木轉荒涼　十里風腥新戰場
征馬不レ前人不レ語　金州城外立ニ斜陽一

南山は令息勝典氏の戰死せられたる處其訃音に接せられしときの如き唯「豚兒よく死んだ唯値ある動作をしたか如何か」と其餘は一言も令息の事に及ぶなく愁容のなかりしは實に將軍の將軍たる所以なり又是れと好一對なるは高崎正風氏の令息海軍大尉高崎元彥氏の戰死の報に接しなるとき正風氏左の二首を詠まれたり其歌に

身をすてゝ國につくせと常にいひし
父がをしへをよく守りけり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

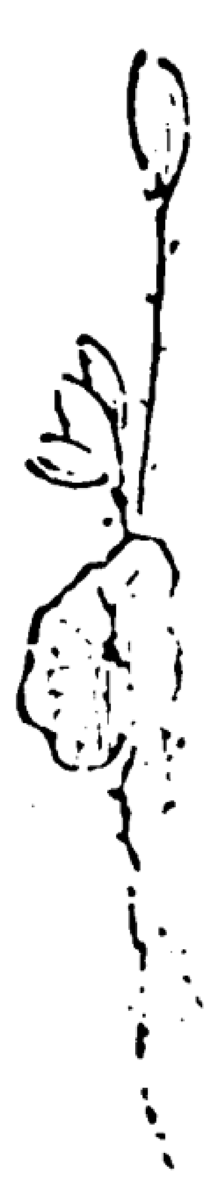
殘しおきし忘れかたみのひとり子は
　われもり立てん心やすかれ

誰れか此詩歌に對し同情の涙を濺がざるものあらんや

▲リチヤードソン夫人　去六月十八日より東京豫備病院澁谷分院に勤務しつゝありしが其筋の許可を經て去八月十三日日光へ赴き三週間滯在の後去る九日歸京十二日より澁谷分院の勤務に熱心從事せらるゝといふかゝる篤志の夫人は實に常人の模倣し易からざる奇特の意思と云ふべきなり

▲マツギー夫人一行の歸國　廣嶋豫備病院に勤務しつゝありし同女史一行の當初願ひ出たる勤務期間は六ケ月なりしを以て其期間經過と共に赤十字社にては本國まで送る手筈なりしが一行は來廿三日長崎出帆の米國陸軍御用船に便乘歸國の許可を得たるよしにて其旨申出でられたるに付本社は其希望に任せ右御用船に便乘歸國の途に就かるゝことゝなり小澤副社長は一行出發の前告別の爲め廣島へ出張せしが一行は何れも名譽の賞牌を得て歸國せしといふ嗚呼其の期間は短かきも遠來我が軍隊の爲め貢獻せられたるの至情は感謝に堪へざる所なり今や同一行は我國情を審かにしたれば歸國の上詳細報告するに於ては我日本の名聲をして一層高からしむるや必せり茲に本會は同一行數月の勞を感謝して措く能はざるなり

△恤兵品の寄贈　開戰以來陸海軍へ恤兵品の寄贈に付いては各人競うて之れが寄贈に怠らざる所なるが目下軍隊に於て最も不足を感ずるものは卷紙、封筒、齒磨、楊枝、半紙、塵紙、卷烟草、手拭、石鹼等にして箇々思ひ〳〵の物品を寄贈するよりも寧ろ代金相當の現金を以てする方當局者取扱の上にも將た軍隊に於て隨時窮乏品を購求する等より見るも便利なる由なれば恤兵の寄贈を爲さんとするものは成可現金を以てする方其の目的を達するに近からんかと云ふ



▲肺結核病者　本年四月以來七月に至る四ヶ月間に屆出たる肺結核患者の總數は二百七十一名内男百七十六名女九十九人之を職業別にすれば

官吏	三	教員	六	學生	一五
商業	三四	工業	二九	農業	九六
漁業	六	其他	八五	合計	二七一

尚ほ年齡級によりて調査するに左の如し

五十年以上	二十六人
四十年以上	二十七人
三十年以上	五十八人
二十年以上	百十六人
十年以上	三十七人
十年以下	七人
合計	二百七十一人

▲女子體育部常務委員會　九月十七日午後三時より開會、小杉、土取、橋本、小林の各委員及井口、日下部、山口、奥田の幹事諸氏出席し幹事長より本部設立後の經過並に常務委員を設くるに至れる所以を說明し次に女子體育部事業概要、加入者勸誘狀案部員承認狀案等に就き逐次協議を遂げ同六時解散せり其の事項左の如し

東京府教育會女子體育部に於て將來施設すべき事業概要

一、女子體育と關する本部の機關雜誌を毎月一回宛發行すること
一、各學校の運動場又は公園練兵場等を借用して部員の運動遊戯場に充つること
一、各區郡便宜の場所に於て女子體育に關する講談會又は幻燈會等を開催すること
一、品川灣又は隅田川等に於て乘船運動を開催すること
一、調査委員を置きて女子に適する運動遊戯の方法を撰定すること
一、指導委員を置き部員の體操遊戯を指導せしむること

附記

一、本年十一月初旬に於て發會式を兼て秋季大會を開催すること
一、發會式迄に部員大凡三千名を募集する方法を講すること
一、顧問部長委員及部員贊助員に本部の徽章を附是すること

▲同仁會の營口支部設立　同仁會にては清韓兩國に於ける病院設立の第一着として今回愈々清國牛莊東營口西北街に同會支部を設立せり

▲豫備病院慰問定日　市内豫備病院に在る傷病者を慰問すべき日は左の如くにて午後一時より同四時までと定められたり

▲女子秋吟會　同會は此程巣鴨精神病院の患者を慰問し且つ音樂と精神病者との關係を研究する爲に同院にて音樂會を開き好成績を得たりと云ふ

▲恤兵靴下寄贈の計畫　第三回恤兵計畫として戰地に靴下を寄贈せんと津田梅子女史及婦女新聞社共發

起となり資金を募集し同女史は篤志女學生と圖り前同様悉皆無手數料にて其編み方に從事せしむる都合なりといふ

＊　＊　＊　＊　＊

▲オステオパシー施術者　リード孃は目下小石川區小日向臺町七十五番地(電話番町一〇七五)新渡部博士宅にあり本會會員若しく本會にて聽講したる旨申出づれば午前八時より午後四時迄施術すべしといふ施術料新來再來の別なく一回分金壹圓なり

大日本婦人衛生會記事

十月例會

十月一日午後正一時半より神田區一ツ橋通女子職業學校に於て例會を開くミスリードには新療法オステオパシーに就き原語を以て演述し本田增次郎君之を通譯せり(同講話は舉げて本誌にあり)次に醫學士山根正次君には滿洲丸に於ける觀戰談といへる演題にて滿洲丸の各地に寄港して觀察したる狀況より韓國皇帝に謁見の事及同地の人情風俗より三笠艦訪問の事に至る迄長時間に亘り詳細に演述せられたり當日は總裁東伏見宮妃殿下にも御臨場あらせられ役員には幹事岡田德子、幹事羽田三緒子、同鳩山春子、評議員高橋孝子、同田村喜代子、幹事高木かう子、評議員岸澄子、幹事山本多穗子(出席順)の諸氏來會せられ會員も秋期初めての會合なりしかば參會者も比較的多く且女學生多數の傍聽ありて午後五時頃散會せり

米澤支會報告

九月例會

九月十一日第二日曜日午後一時より米澤市議事堂に於て例會を開く當日左の講話ありて午後四時散會せり

出席講師は仁科、楠川、關、矢尾板、猪股の諸氏なりしといふ尚當日の演題講師は左の如し

一赤痢病に就て　仁科講師
一食物消化に就て　楠川講師

高崎支會報告

●九月例會

九月四日（日曜日）第二十五例會高崎高等小學校に開く午後一時開會第一席秘尿生殖器耳科專門醫關緇齡君「解剖學の大意」と題し骨節軀幹部の骨格を示されて詳述し尙ほ後日漸次讀述する都合なりと第二席産科婦人科專門醫々學士津久井省三君は「癌腫」と題し本病の一般症狀經過を述べられ殊に子宮癌に就て詳述せられたり第三席産科婦人科專門醫乾宗太郎君「赤痢病の隱蔽」と題し本病傳染の恐るべき事隱蔽の弊害並に一村落傳染の經路を述べ此病氣を防くには婦人に其責任あり故に御婦人方には充分此點に注意し斯樣な傳染病の根を斷ん事望むと述べられたり時針器四時半刻に閉會を告く出席會員は多く役員の出席者は左の諸氏なり

相川　相澤　鈴木　三橋　星野　齋藤　土谷

茨城支會報告

九月例會

九月二十五日水戶常磐公園内好文亭に於て午後一時より例會を開く

一、開會の辭

二、自己と云ふことに就て　茨城師範學校長　本田喜種君

三、疫痢と云ふ病名に就て　濟生院長　波多野悖君

四、女子の實業に就て　水戶商業學校長　大友泰一郎君

尙同氏は仙臺市に於ける宮城婦人會員の製作になりし手藝品數十種を示して該地女子實業の概況を紹介せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山形支會報告

十月例會

十月八日午後二時より山形市女子師範學校内に於て例會を開く來會者會員及傍聽生約百名堀師範學校長津田女學校長龜田北島の兩醫學士等出席せられ左の有益なる講話ありて四時散會せり

教育勅語の話（前號の續）　堀　義太郎君

咽の衛生　龜田　健次郎君

宇都宮支會報告

吉永講師の留學

宇都宮支會の講師として盡力せられたる吉永峯九郎氏には今回獨逸國留學の途に就かれしを以て其發程前送別の宴を張らんかとの説もありしが時節柄に付之を省き他の方法により餞別の意を表し出發の際は會員一同宇都宮停車場迄見送りを爲せしといふ

弔詞

山形支會講師吉村森柳氏逝く　嗚呼吉村氏は山形支會創立以來講師として熱心に盡力せられしが過般來病氣の處遂に逝去せられたり

矢島たま子逝く　仝女史は米澤支會發起人の一人として創立以來盡力せられしが此程病死せられたり本會は右兩氏に對し

謹みて哀悼の意を表す

大日本婦人衛生會

●本會入會者

○麹町山本幹事紹介
●芝區三田綱町十番地　特別會員　吳　廣子

○淺草龜田輝子紹介
●下谷區二長町五十二番地　通常會員　西川ぬい子

○前橋山下から子紹介
●麻布區飯倉森元町一丁目廿七　通常會員　藤川　修子

○麻布島循子紹介

●麻布區宮村町六十七番地　通常會員　芳川新子

○神戸婦人協會山田まり子紹介

●神戸市橋通二丁目一番地　通常會員　平井みと子

○日本橋大八木幸子紹介

●京橋區木挽町二丁目十三番地　通常會員　奥村まつ子

○神田渡邊かづ子紹介

●牛込區大久保余丁町百九番地　通常會員　渡邊仙子

○事務所申込

●大分縣直入郡竹田町　通常會員　黑野春子

●本郷區天神下同朋町十二　通常會員　前島あか子

○小石川宮崎與志子紹介

●本郷區西片町十、ほノ廿九號　通常會員　村上靜子

○高知野並陳三穗紹介

●高知市金子橋　通常會員　長曾我部初子

●仝　市鷹匠町　通常會員　三松しげ子

●仝　市西旅小路　通常會員　中川てゑ子

●仝　市小升形　通常會員　大岩淑子

●仝　市仝　通常會員　村上美惠子

●仝　市中島町二十七　通常會員　黑岩兎志子

●仝　市仝町二百九十　通常會員　武田登喜子

○東京成田文太夫君紹介

●仙臺市東二番丁百一番地　通常會員　加藤つね子

●仝　市元寺小路十七番地　通常會員　菅浪ゑい子

●仝　市北六番町百廿二番地　通常會員　遊佐とよ子

●仝　市二日町六十番地　通常會員　增澤まつみ子

●仝　市北四番丁百廿八番地　通常會員　成田松子

●高崎支會入會者

○土谷特別贊成員紹介

●高崎市田町九十七番地　通常會員　清水もと子

○事務所申込

●仝市若松町十八番地　贊成員　乾宗太郎君

○相澤小松子紹介

●仝市九藏町　通常會員　村上すき子

●仝市田町八十一番地　通常會員　豐泉むめ子

○白石米子紹介

●○市白銀町　通常會員　野口りう子

●仝市仝町　通常會員　浦野ふじ子

○三橋ひろ子紹介

●仝市新町一番地　通常會員　山本めよ子

○齋藤れう子紹介

●仝市宮元町四十五番地　通常會員　平野かん子

八月雜誌中の正誤

大山うら子紹介　九藏町三十八番地　小林きみ子

相川すが子紹介　本町百二十四番地　相川はま子

土谷金次紹介　相生町二十六番地　小林春造君

保坂なか子紹介　田町七十五番地　長屋まん子

飯島とく子紹介　田町　小川やそ子

前記の黑點は誤記を更正せしものなり

●新潟支會入會者

○中村幹事紹介

●新潟市東堀通十一番町　通常會員　小島まき子

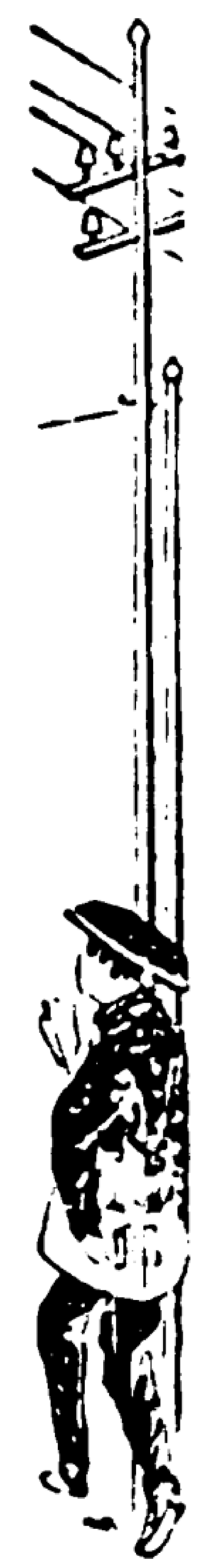
○廣川靜子紹介

南蒲原郡本成寺村字四日市　通常會員　廣川れん子

●米澤支會入會者

●米澤市長井町字宮　甲種　遠藤きり子

●仝　市細田町　乙種　益田わき子



●轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相願候

●埼玉縣大里郡明戸村石塚高野氏方へ　石曾根いせ子

●本所區緑町一丁目四十四關口氏方へ　本島かれ子

●芝區神明町二十五田村氏方へ　奥山啟子

●清國天津日本租界宮島街へ　武水良子

●大坂市北區若松町官舎へ　國分峯子

●長崎市今魚町六十二へ　平山禎子

●長野市狐池四十九へ　習田文子

●群馬縣前橋市曲輪町十一へ　山下かう子

●京都市上京區烏丸通夷川下ルへ　石栗とせ子

●山梨縣甲府市富士川町七番地へ　權田きん子

●千葉縣千葉市川櫻井様方へ　飯田和香子

●赤坂區丹後町十一番地へ　蒲原和歌子

●府下荏原郡大井村三千六字鹿島谷へ　粕谷たけ子

●京都河原町通荒神口上ル東櫻町へ　白藤りく子

●廣島市大手町九ノ三百三十八番屋敷へ　松方龜子

●高崎支會より本會へ轉入

●牛込區若松町百四十四番地へ　三澤豐子

●山形支會より本會へ轉入

●麹町區飯田町四丁目二番地へ　沖野りう子

●會員姓名變更

●大坂波野てる子改メ　波多野葉津子

●佐賀奥村禎子改メ　平山禎子

●沖繩伊勢よう子改メ　岡本よう子

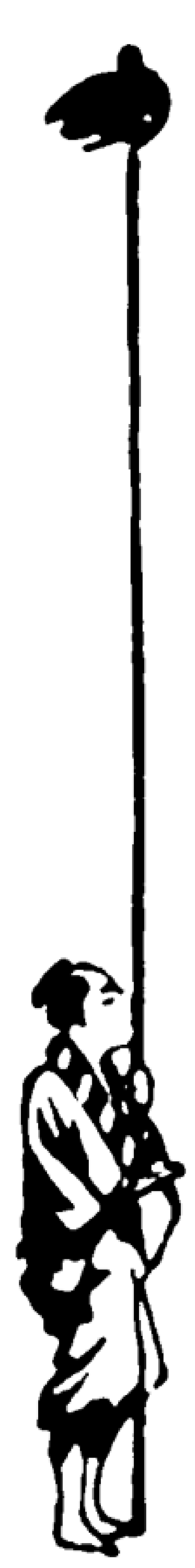
●新刊紹介

經濟新報臨時增刊

醬油の卷　一册定價十五錢

神田區表神保町九番地　大賣捌　宮山房

本書は臺所經濟の主眼とも云ふべき醬油に就き一家の主婦として心得置かでかなわぬことを詳述し終りに銚子及野田醬油の起原沿革等を説きたる主婦必携の良書なり



●交換寄贈雜誌（九月分）

●日本赤十字　京橋區築地二ノ二十一　日本赤十字發行所

●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會

●をんな　麹町區下二番町二十七　大日本女學會

●大坂醫學會雜誌　大坂市東區淡路町一ノ四六　大坂醫學會

●通俗衛生　大阪西區土佐堀通二ノ二九　大坂私立衛生會
●大日本婦人教育會雜誌　赤坂區表町二ノ十三　大日本婦人教育會
●國家醫學會雜誌　本郷區富士町一　國家醫學會雜誌發行所
●婦人世界　大坂南區鹽町通四ノ七　順華婦人會
●産科婦人科學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　産科婦人科學會
●大日本耳鼻咽喉科會々報　東京醫科大學耳鼻咽喉科醫局内　大日本耳鼻咽喉科會
●學校衛生　本郷區駒込西片町　學校衛生研究會
●婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
●愛國婦人　麹町區飯田町一丁目　愛國婦人發行所
●藥石新報　大坂西區江戸堀下通二ノ三六　藥石新報社
●工手の母　大坂北區西野田新家四ノ町　工手の母新聞社
●草樂新聞　大坂南區心齋橋筋二丁目　草樂新聞社
●日本衛生週報　甲府市佐渡町十五　日本衛生週報社
●家庭新聞　熊本市北新坪井町三　家庭新聞社
●兒童教育　神田區末廣町十　兒童新聞社
●日本婦人　府下澁谷村字常磐松御料地内　帝國婦人協會
●衛生報知　神戸市相生町一ノ廿七　私立神戸市衛生會
●京濱實業新報　神田區北神保町八　京濱實業新聞社
●東京藥事新報　京橋區槇町四　東京藥事新報社
●東京教育雜誌　神田區錦町一ノ二十　東京教育雜誌發行所
●體育　府下荏原郡大井村字北濱川　日本體育會
●大日本私立衛生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衛生會
●婦人新報　赤坂區榎坂町五　婦人新報社
●産婆學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本産婆學協會
●廣島衛生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衛生醫事月報社
●越佐教育雜誌　新潟市東仲通一番町　越佐教育雜誌社
●婦人と子ども　本郷區女子高等師範學校　フレーベル會
●神經學雜誌　小石川區駕籠町　日本神經學會
●新潟縣衛生會雜誌　新潟縣廳内　新潟縣衛生會

●婦人　神戸市三ノ宮町一丁目　婦人協會
●ひじり慈門寶鑰　愛知縣岡崎町菅生　滋善堂發行所
●福田會月報　麻布區笄町百三　福田會育兒院
●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町　牟婁新報社
●北海實業新報　北海道札幌區北二條東二丁目　北海實業新報社
●催眠術新報　下谷區谷中坂町三六　大日本催眠術協會
●書籍新報　日本橋區本銀町四丁目　帝都社
●佛教婦人　東京巣鴨　家庭社編輯部
●學校新聞　福井縣福井市毛矢町　學校新聞社
●家庭雜誌　麹町區六番町十　由分社
●藥業新報　福井市佐佳枝上町　藥業新報社
●新潟日報　新潟市四堀通三番町　新潟日報社
●藥業公論　豐多摩郡内藤新宿北裏町　藥業公論社
●東京市教育會雜誌　東京市役所内　東京市教育會
●日英新報　英國倫敦　日英新報社
●おとづれ
京都上京區烏丸通上長者町下ル龍前町十　京都看護婦學校同窓會



家庭之友

▷毎月一回三日發行 一冊五錢郵稅五厘 一ヶ年分郵稅共前金六拾錢◁

（第二卷）第七號 十月發行 要目

松蕈料理數種 宇山錄子

滿一年までの嬰兒取扱方 井上友子

男女再婚論 大內青巒。棚橋絢子。安部磯雄

家庭料理（宇山錄子）○禁酒實驗談（秋鹿）

育兒日誌の體裁 迪宮殿下御日誌寫

多摩河畔より（大下藤次郎）○錢五の一日

新案のおしめ○家政問答

育兒問答○社會百生活 其他

◆第壹卷 全部（十二冊）合本 第五回製本出來 總クロス製 郵稅共七拾錢

家庭及女學書類

堺枯川著 **家庭の新風味** 育兒法 奥樣氣質 見聞錄等 定價壹圓 郵稅八錢 總クロス綴美本

羽仁元子著 **家庭小話** 定價金貳拾五錢 郵稅二錢

堺枯川編 軒 **家庭夜話** 全部三冊合本 總クロス綴 美本 定價壹圓 郵稅八錢

加藤眠柳著 **女子立志編** 上製五拾錢 郵稅六錢 並製三拾錢 郵稅四錢

英國ハムフリー夫人原著 落合浪雄譯修 **婦女小訓** 定價貳拾錢 郵稅要セズ

英國スウエル女史原著 本田增次郎譯述 **驪語**（くろうまものがたり） 美本八拾錢 郵稅六錢

版元 東京市本鄕區駒込西片町十番地 **內外出版協會**

出版廣告

故長與專齋先生遺著　全壹册既刊

松香私志

正價　金四拾錢
郵稅　金四　錢

洋裝菊判二百頁肖像筆蹟及塋域の寫眞入

本書は長與專齋翁の遺著にして曾て孝嗣醫學博士稱吉君が出版されしものなるが今回更に同君より其版權を寄附せられたるに依り當文庫より再版に附することゝなれり

翁が終生本邦の醫務衞生の事に就て苦心焦慮以て其一生面を開き大に世を益せられたるは普ねく世人の知る所なり本書の名私志と云ふと雖も其實本邦の衞生小史と謂ふべきなり且此再版には翁の肖像親筆及其塋域の一斑を併せ掲げたり希望の諸君は當文庫へ申込まるへし

但御申込の節は必らす前金御送付の事

東京市京橋區宗十郎町七番地
大日本私立衞生會內（電話新橋二七四）

長與衞生文庫

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす 終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢 通常會員全金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢 乙仝金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く 會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得 役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の贊助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

事務所新潟市學校町二番町四十七
和田くに子方

明治廿九年四月創立

新潟支會

私立大日本婦人衛生會

高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く 會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一個年とし再撰するを得●第九條 本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條 當支會は毎月一回講話會を開き 毎年一回總會を開くものとす 總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得 但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一個月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす 但三個月分以上宛前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條 特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上靴及羽織は紬布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ紬布ヲ用フルヲ禁ズ第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會

米澤支會規則

第一條 當會ハ私立大日本婦人衛生會米澤支會ト稱シ衛生上ノ研究ヲ目的トシ互ニ智識ヲ交換シ社會ノ幸福ヲ增進スルニアリ

第二條 支會事務所ハ當時假ニ當時免許町一三六九番地猪股方ニ置ク

第三條 當支會ニ會長一名副會長一名幹事五名ヲ置ク其任期ハ各一年トス

第四條 毎月一回(第二日曜午後一時ヨリ四時迄)講話會ヲ開キ毎年五月總會ヲナシ役員改撰庶務會計等ノ報告ヲナス

第五條 入會ハ會員ノ紹介ヲ經テ宿所姓名ニ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込又退會セントスル者ハ其旨事務所ニ屆出ヘシ

但シ已納ノ會費ハ返附セス

第六條 當支會ノ會費ハ左ノ三種トシテ特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納スルモノトス

但會費拾五錢以上納ムル者ニハ本會雜誌ヲ配附ス

第七條 會費ハ雜誌料トシテ本會ヘ納メ一部ハ支會經費ニ充テ殘餘ハ銀行ヘ貯蓄シテ支會事業ノ資金トナス

第八條 會員及員外篤志者ヨリ金品ノ寄贈アル時ハ役員協議ノ上特待員又ハ賛成員トナスヘシ

第九條 講話ノ節ハ汎ク婦人ノ傍聽ヲ許ス

第十條 支會々員ノ質素ヲ旨トシ集會ノ際ハ可成木綿服ヲ着用スルコ

第十一條 特ニ支會則ニ掲ケサルモノハ本部ノ會則ヲ準用ス

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲竹中成憲著書中之最大著

再版 **日本小内科學**（内科各論）

▲本綴洋革美本 ▲郵稅共金五圓

◎發兌元 東京本鄉春木町貳丁目廿貳番地 半田屋

醫學士 竹中成憲作

▲通俗肺結核豫防法 ▲郵共參錢郵劵拾八枚

總振假名付百二十頁 正價五拾錢郵稅四錢

脉格薄弱ナル人及ビ既ニ肺患ニ侵サル丶人ノ心得ベキ攝生事項ナ通俗的ニ記述シタルモノニシテ 肺結核豫防法ノ内務省令トシテ出タル今日何人モ一讀セラルベキモノナリ

◎發兌元 東京本鄉湯島天神町二ノ三六 鳳文堂

商標

艶肌

一名改良あらひ粉

色を白くする衛生的洗料!!!

しやぼん。ぬか。あらひ粉兼用

定價箱入拾錢 袋入五錢と二錢

本舖 東京牛込通寺町三十八 松壽堂

自今左記病院に於て刀圭に從事致候

新潟縣 小出町 **小出病院**

竹中成憲

齒科診療（電話本局千六百六番）

東京日本橋區本町二丁目

齒科醫 高橋孝子

齒科醫 高橋虎一

速記應囑

事務所の特長は深切にして然も迅速なるにあり◎女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家翻譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

麴町區富士見町五丁目九番地

佃速記事務所

電話番町四十八番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　七十錢（黑檀箱入送費九錢）

六十錢（桐箱入送費六錢）

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町飯田橋通）宛振出あるべし又た價格表記逓送便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈の事

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市麴町區飯田町六丁目三番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行人　田中德三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷人　渡邊智

明治三十七年十月二十五日印刷及發行
婦人衛生雜誌第百七拾九號（毎月一回二十日發行）

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場印刷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN